

岩土北平遺跡2次・4次、岩土原遺跡2次・3次

市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2012年

延岡市教育委員会

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町岩上北平及び岩土原地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大級の電気化学工業集積地となっています。また、近世延岡藩の城下町としても繁栄を遂げ、教育文化・産業経済のけん引役を担っています。

近年は、市民参加による「のべおか天下・薪能」、「城山かぐらまつり」などの開催をはじめ、九州保健福祉大学の開学や国道10号延岡道路及び国道218号北方延岡道路の部分開通など大きな変革を迎えていました。さらに、市有面積としては九州内で二番目の規模をもつ都市となり、伝承芸能や農林水産資源などが融合する活気あるまちづくりに歩みだしているところです。

本書の刊行を通して、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、新最終処分場建設室、北方町総合支所建設課、笠下区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成24年3月

延岡市教育委員会

教育長 町田訓久

例　言

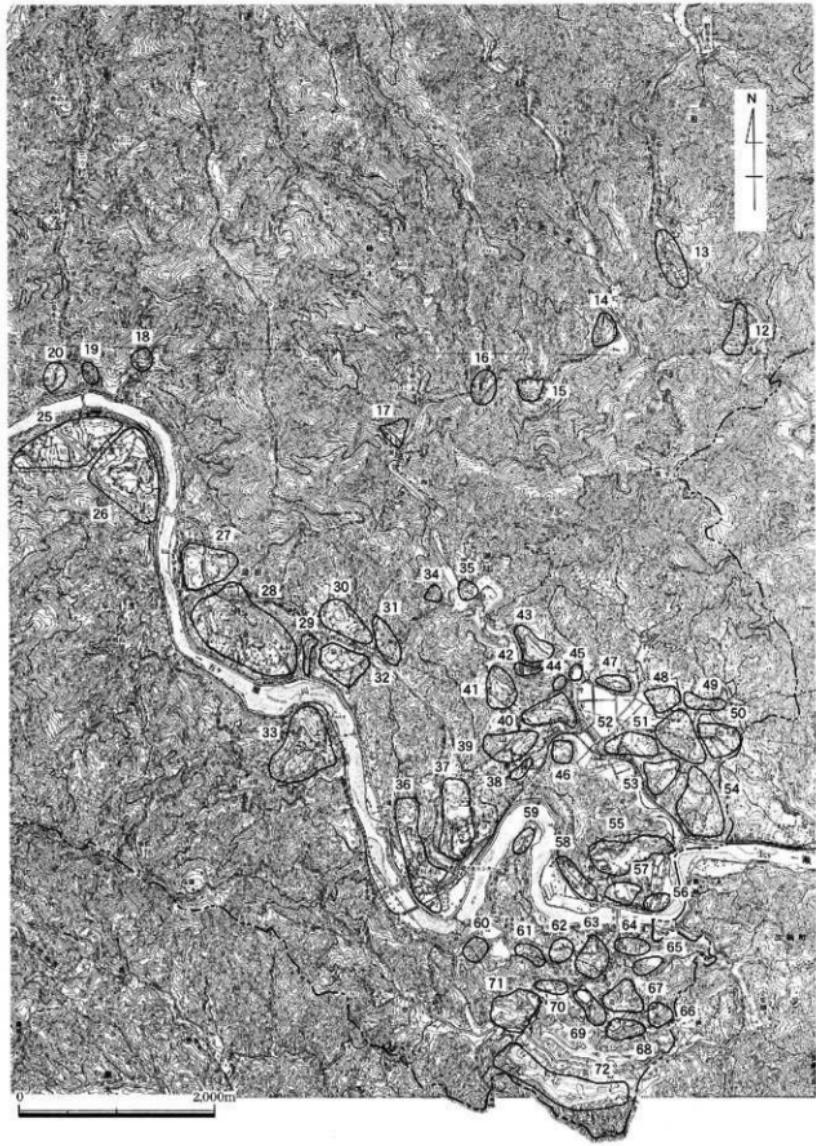
1. 本書は、平成22・23年度市道岩土原線整備事業に伴い新最終処分場建設室の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同文化課文化財係専門員 小野信彦が担当した。
3. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、発掘調査及び整理作業員の協力のもと小野信彦が行なった。
4. 現場及び遺物の写真撮影は、小野が行った。空中写真の撮影は、九州航空（株）が行った。
5. 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
6. 本書の執筆・編集は小野があたった。
7. 本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。
8. 出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　次

I はじめに	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
3. 位置と歴史的環境	1
II 調査の内容	
1. 調査の概要	5
2. 基本層序	5
3. 岩土北平遺跡の調査	8
4. 岩土原遺跡の調査	12
III おわりに	53
報告書抄録	54

挿図・表・写真目次

番号	内 容	頁	番号	内 容	頁
1	延岡市北方町遺跡分布図 (S=1/50,000)		47	岩土原遺跡 5 区航空写真	46
2	延岡市北方町遺跡一覧表	3	48	1号集石遺構 (北より)	47
3	岩土北平遺跡・岩上原遺跡周辺地形図 (S=1/20,000)	4	49	2号集石遺構 (南より)	47
4	調査区位置図 (S=1/1,000)	6	50	3・4号集石遺構 (南より)	47
5	検出構造一覧表	7	51	5号集石遺構 (北より)	47
6	自然科学分析一覧表	7	52	6号集石遺構 (北より)	47
7	岩土北平遺跡造構配置図 (S=1/400)	8	53	7号集石遺構 (北より)	47
8	岩土北平遺跡出土遺物実測図① (S=1/3)	9	54	8・9・10号集石遺構 (北より)	47
	岩土北平遺跡集石遺構実測図① (S=1/40)		55	9号集石遺構断面 (北より)	47
9	岩土北平遺跡出土遺物実測図② (S=1/2・1/3・2/3)	10	56	11号集石遺構 (南より)	48
10	岩土北平遺跡出土遺物実測図③ (S=1/3)	11	57	12号集石遺構 (東より)	48
11	岩土原遺跡造構配置図 (S=1/400)	13-14	58	13号集石遺構 (東より)	48
12	岩上原遺跡出土遺物実測図① (S=1/2・1/3・2/3)	15	59	14号集石遺構 (北より)	48
13	岩土原遺跡出土遺物実測図② (S=1/3)	16	60	2号土坑 (東より)	48
14	岩上原遺跡集石遺構実測図① (S=1/40)	17	61	3号土坑 (北より)	48
15	岩土原遺跡集石遺構実測図② (S=1/40)	18	62	4号土坑 (南より)	48
16	岩土原遺跡集石遺構実測図③ (S=1/40)	19	63	5号土坑 (南より)	48
	集石遺構内出土遺物実測図① (S=1/2・1/3)		64	6号土坑 (南より)	49
17	岩土原遺跡集石遺構内出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)	20	65	7号土坑 (北より)	49
18	岩土原遺跡土坑実測図① (S=1/40)	21	66	8号土坑 (東より)	49
19	岩土原遺跡土坑実測図② (S=1/40)	22	67	9号土坑 (東より)	49
20	岩上原遺跡土坑内出土遺物実測図① (S=1/2・1/3・2/3)	23	68	10号土坑 (東より)	49
21	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図② (S=1/3・2/3)	24	69	1号竪穴住居跡 (西より)	49
22	岩上原遺跡土坑内出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3)	25	70	出土遺物 (1~14)	49
23	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図④ (S=1/2・1/3・2/3・1/4)	26	71	出土遺物 (15~32)	49
24	岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図⑤ (S=1/3)	27	72	出土遺物 (33~51)	50
25	岩土原遺跡出土遺物実測図⑥ (S=1/2・1/3・2/3)	28	73	出土遺物 (52~66)	50
26	岩土原遺跡出土遺物実測図⑦ (S=1/2・1/3・2/3・1/6)	29	74	出土遺物 (67~84)	50
27	岩土原遺跡出土遺物実測図⑧ (S=1/3・1/4)	30	75	出土遺物 (85~103)	50
28	岩土原遺跡出土遺物実測図⑨ (S=1/3・1/6)	31	76	出土遺物 (104~122)	50
29	岩上原遺跡出土遺物実測図⑩ (S=1/3)	32	77	出土遺物 (123~142)	50
30	岩土原遺跡出土遺物実測図⑪ (S=1/3)	33	78	出土遺物 (143~159)	50
31	岩土原遺跡出土遺物実測図⑫ (S=1/3)	34	79	出土遺物 (160~178)	50
32	岩土原遺跡出土遺物実測図⑬ (S=1/3)	35	80	出土遺物 (179~199)	51
33	岩土原遺跡出土遺物実測図⑭ (S=1/3)	36	81	出土遺物 (200~206)	51
34	岩土原遺跡堅六住丘跡実測図 (S=1/40)	37	82	出土遺物 (207~215)	51
	堅六住丘跡内出土遺物実測図① (S=1/3・1/4・1/6)		83	出土遺物 (216~221)	51
35	出土陶器類一覧表	38	84	出土遺物 (222~224)	51
36	岩土原遺跡その他の出土遺物実測図 (1/3・1/4)	38	85	出土遺物 (225~244)	51
37	出土陶器類 (364~423)	39	86	出土遺物 (245~265)	51
38	出土遺物觀察表①	40	87	出土遺物 (266~280)	51
39	出土遺物觀察表②	41	88	出土遺物 (281~296)	52
40	出土遺物觀察表③	42	89	出土遺物 (297~319)	52
41	出土遺物觀察表④	43	90	出土遺物 (320~342)	52
42	出土遺物觀察表⑤	44	91	出土遺物 (343~351)	52
43	岩土北平遺跡・岩土原遺跡航空写真 (南西より)	45	92	出土遺物 (352)	52
44	岩上北平遺跡航空写真	45	93	出土遺物 (353)	52
45	岩土原遺跡 1 区航空写真	46	94	出土遺物 (354~356)	52
46	岩土原遺跡 2~4 区航空写真	46	95	出土遺物 (357~363)	52



1. 延岡市北方町遺跡分布図 (S=1/50,000)

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

延岡市北方町笠下地区では、市道笠下中山線と笠下松瀬線を結ぶ道路整備が、かねてより強く望まれていた。そこへ、新たに新最終処分場建設が予定され、同地区への廃棄物運搬車両等の増加が見込まれることから、安全性の確保及び運搬車両の効率的な運行のために、市道岩土原線の整備が急務となってきた。工事予定地内は、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ半船底型細石核と隆溝上に爪形文を施した土器が共伴して出土した岩土原遺跡の一角に当たるため、平成22年4月26日以降協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は、表土剥ぎのみを平成23年3月1日から平成23年3月31日にかけて実施し、引き続き遣構検出等の作業を平成23年4月19日から7月25日にかけて行った。整理・報告書作成作業は平成23年5月9日から実施した。

2. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体 延岡市教育委員会

教育長	町田 謙久
教育部長	甲斐 享博
文化課長	大島紀世子（平成22年度）
	佐藤 憲史（平成23年度）
文化課課長補佐	伊東 優（平成22年度）
	鷲島 孝幸（平成23年度）
文化課文化財係長	山田 聰
庶務担当	文化課文化振興係主任主事 松岡 直子
調査担当	文化課文化財係専門員 小野 信彦
調査指導	宮崎県文化財課
調査協力	宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位

3. 位置と歴史的環境

岩土北平遺跡及び岩土原遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の日山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や哲木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

岩土北平遺跡及び岩土原遺跡の西には、最終処分場建設に伴う発掘調査で縄文時代早期の集石造構、古墳時代前期の堅穴住居跡が検出された上田下遺跡がある。また、南には笠下（ゴルフ場）遺跡がありナイフ形石器や利片尖頭器が出土している。この外に、五ヶ瀬川上流にはAT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で早期の押型文上器・集石造構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟B式土器・曾畑土器等が、中期では笠下原遺跡等で船元式土器がしている。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式上器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付II式土器と思われる十器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての堅穴住居跡が、矢野原遺跡、打扇遺跡、藏田遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石棺が殿上、矢野原、駄小屋、後曾木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

古代では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若下の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、藏田城や仲畠城があるが、笠下遺跡等では祭祀構造が検出され、備前焼のすり鉢や明錢等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

江戸時代から明治期にかけて、北方地区では日平鉱山・横峰鉱山等の鉱山開発が積極的に行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの横峰鉱山は、明治33年（1900）以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは、北方地区の生活基盤の底上げを行い、経済効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあった。

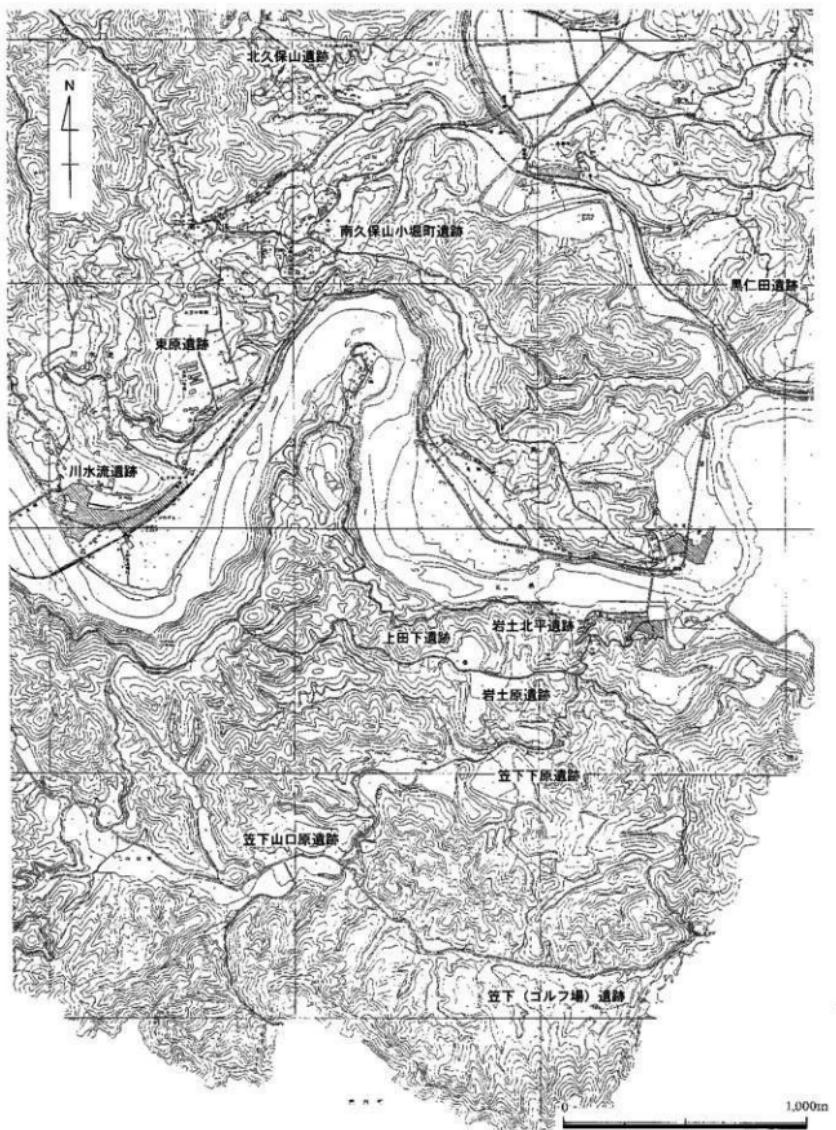
昭和42年（1967）に鉱山が閉山すると産業構造も大きく変化し人口も大きく減少した。このため、農林業の振興の他、国指定名勝である比叡山・矢筈岳や鹿川渓谷等の自然遺産や人工芝スキー場・風力発電を備えた総合レジャー施設E T O ランド等の観光資源を活かした地域づくりを積極的に推し進めている。

引用・参考文献

- ・田中 茂『東臼杵郡北方村先史遺物地名録』北方村教育委員会 昭和34年（1959）
- ・田中 茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会 昭和37年（1962）
- ・鈴木重治「本邦における土器起源に関する研究—岩上原遺跡の調査を中心に」
『南九州大学園芸学部研究報告』第3号・別刷 南九州大学園芸学部 昭和45年（1973）
- ・北方町史編纂委員会『北方町史』北方町役場 昭和47年（1972）
- ・角川書店『角川 日本地名大辞典』45宮崎県 昭和61年（1986）
- ・北方町教育委員会「笠下遺跡」「北方町文化財報告書1」昭和61年（1986）
- ・北方町文化財保護審議会『北方町の古跡を訪ねて』 平成元年（1989）
- ・宮崎県『宮崎県史』資料編考古1 ぎょうせい 平成元年（1989）
- ・宮崎県『宮崎県史』資料編考古2 ぎょうせい 平成5年（1993）
- ・北方町教育委員会『横峰鉱山史』（1992）『宮崎県史』史料編近世3 ぎょうせい 平成4年
- ・宮崎県教育委員会「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・藏田遺跡」「一般国道218号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」平成7年（1995）
- ・平凡社『宮崎県の地名』－日本歴史地名体系46巻 平成9年（1997）
- ・北方町『日本唯一干支の町 北方町の文化財』平成10年（1998）
- ・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書I』平成10年（1998）
- ・宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書II』平成11年（1999）
- ・北方町史第2巻編纂委員会『北方町史第2巻』北方町役場 平成11年（1999）
- ・延岡市教育委員会『延岡市の文化財』平成13年（2001）
- ・北方町教育委員会「町内遺跡詳細分布調査報告書」「北方町文化財報告書23」平成16年（2004）
- ・延岡市教育委員会「上田下遺跡」「延岡市文化財報告書44」平成23年

番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
1	ト麗川東の内遺跡	上郷川(東の内) 午	散布地	縄文～近世	一部日之影町へ分岐が広がる
2	比嘉山	皆原未	国指定史跡		日之影町矢佐経と合わせて指定
3	實原洞穴・皆原遺跡	實原未	汲石坑・洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和41年南九州知大により調査 銚山跡
4	横峰遺跡	横峰木	散布地	縄文～近世	
5	美々地遺跡	美々地未	散布地	縄文～中世	中世山城の可能性
6	三ヶ村桑の木遺跡	三ヶ村(桑の木) 午	散布地	中世～近世	備前始のすり跡と多量の古鉢が出土
7	三ヶ村内の口遺跡	三ヶ村(内の口) 午	散布地	中世～近世	
8	上小尾遺跡	上小尾(上小尾) 西	散布地	中世～近世	
9	人保下遺跡	板上(人保下) 東	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	板上(石上) 宮	散布地	中世～近世	
11	上段上遺跡	板上(二段上) 及	散布地	中世～近世	
12	唐立遺跡	一殿(唐立) 成	散布地	中世～近世	
13	櫻井遺跡	一殿(櫻井) 皮	散布地	縄文～中世	平成4年確認調査、一部消滅
14	慶原形遺跡	松下(慶原形) 戸	散布地	縄文～中世	
15	板ヶ平遺跡	板上(板ヶ平) 戸	散布地	縄文～中世	
16	小屋遺跡	板下(小屋) 戸	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
17	藤の木水奈水遺跡	藤の木(水奈水) 西	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
18	尾松遺跡	八幡(尾松) 午	集落跡	中世～近世	
19	八岐遺跡	八岐午	集落跡	中世～近世	一部消滅
20	佐川遺跡	八岐(佐川) 午	散布地	中世～近世	
21	株垣遺跡	椎垣未	散布地	縄文～近世	多木道跡(旧名)を変更
22	城塹跡	早見(城) 巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削除されている
23	久保遺跡	早見(久保) 巳	散布地	縄文～近世	
24	荒平遺跡	早見(荒平) 巳	散布地	縄文～近世	
25	打畠遺跡	早見(打畠) 巳	集落跡	縄文～近世	
26	早川遺跡	早見(早川) 巳	集落跡	石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
27	久野原遺跡	久野原(久野原) 辰	集落跡	石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
28	鹿田遺跡	鹿田辰	集落跡	石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
29	鹿田城	鹿田辰	中世		施等が良好に残る
30	駒小屋遺跡	駒田(駒小屋) 辰	散布地	旧石器～近世	
31	山岸遺跡	山岸(山岸) 辰	散布地	縄文～近世	半成9年調査、一部消滅
32	島上遺跡	島田(島) 戸の上	散布地	石棺群	石棺群は消滅
33	上崎地区遺跡	島田(上崎) 戸	集落跡	石器～近世	平成12年度～19年度まで調査、一部消滅
34	船木谷遺跡	船木(船木谷) 子	散布地	縄文～近世	
35	福越遺跡	福越	散布地	縄文～近世	
36	川水洗瀬跡	川水洗瀬	散在地	旧石器～近世	
37	東原遺跡	川水洗(東原) 卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
38	南久保山小堀町遺跡	南久保山(小堀町) 了	集落跡	旧石器～近世	
39	十割ヶ原遺跡	南久保山(十割ヶ原) 子	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	曾木(柳瀬) 子	散布地	縄文～近世	
41	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	一部消滅
42	猪俣遺跡	猪俣(猪俣) 了	散布地	縄文～近世	一部消滅
43	上ノ浦遺跡	猪俣(上浦) 子	散布地・中世山城	縄文～中世	西南戦争時に内利用
44	伴田城跡	猪俣(伴田) 子	中世山城	中世	施等が残る
45	伴田遺跡	猪俣(伴田) 子	散布地	縄文～近世	
46	寺ノ鍬遺跡	曾木(寺ノ鍬) 了	石棺群	古墳	恩指定北方村占墳1号墳
47	後曾木遺跡	曾木(後曾木) 子	散布地・石棺群	古墳	恩指定北方村古墳3号墳
48	荒谷遺跡	曾木(荒谷) 子	散布地	縄文～近世	
49	荒谷遺跡	曾木(荒谷) 子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
50	曾木町遺跡	曾木(曾木町) 子	散布地	旧石器～近世	
51	深谷遺跡	曾木(深谷) 了	散布地	旧石器～近世	
52	古城遺跡	曾木(古城) 子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
53	中野遺跡	曾木(中野) 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
54	黒牛山遺跡	曾木(黒牛山) 子	散布地	縄文～近世	一部消滅
55	糠原原遺跡	糸田(糠原原) 井	散布地	縄文～近世	一部消滅
56	角田遺跡	糸田井	散布地・中世山城	縄文～近世	上原敷、下原敷、堀内などの地名が残る
57	糸田上ノ原遺跡	糸田上(ノ原) 丑	散布地	縄文～近世	
58	糸田瀬遺跡	糸田瀬(糸田瀬) 丑	散布地	縄文～近世	
59	下島遺跡	糸田下(下島) 丑	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	川水流(中山) 卯	散布地	縄文～近世	消滅
61	上田下遺跡	笠下(上田下) 寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
62	若土北平遺跡	笠下(若土北平) 寅	散布地	旧石器～近世	
63	岩土原遺跡	笠下(岩土原) 寅	散布地	旧石器～近世	昭和44年南九州短期大学により調査
64	竿下遺跡	竿下 亥	散布地	縄文～近世	一部消滅
65	松尾原遺跡	笠下(松尾原) 寅	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	笠下(藤ノ木谷) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
67	伊木原遺跡	笠下(伊木原) 寅	散布地	旧石器～近世	
68	渡ノ越遺跡	笠下(渡ノ越) 寅	集落跡	旧石器～近世	
69	笠下下原遺跡	笠下下(下原) 寅	散布地	旧石器～近世	下原は通称名
70	笠下原遺跡	笠下(原) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
71	笠下山原遺跡	笠下(山原) 寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
72	笠下ゴルフ場遺跡	笠下(地図) 外 寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

2. 延岡市北方町遺跡一覧表



3. 岩土北平遺跡・岩土原遺跡周辺地形図 (S=1/20,000)

II. 調査の内容

1. 調査の概要

調査は、市道岩土原線の拡幅部分を崩上防止や地区住民の耕作のための安全通行を優先し、谷を挟んで西側の岩土北平遺跡を3地区に、東側の岩土原遺跡を5地区に設定して行った。

岩土北平遺跡は削平が進み、1区・2区では耕作土を除去するとローム層となり、3区の一部にはアカホヤ層が残るのみであった。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構1基と時期不明の柱穴を若干検出したにとどまった。また、ローム層中に縄文時代早期包含層の影響を確認した。そのいくつかには縄文時代早期の遺物が出土し炭化物及び焼土の集中が見られるものの、不定形なものが多く明確な掘り込みラインを確認していない。出土遺物では、量は少ないものの旧石器時代の使用痕剥片や礫器、縄文時代早期の石鏃、スクレイパー、磨石、石斧、尖頭状石器、押型文土器がある。弥生・古墳時代及び中世の遺物は極端に少ない。

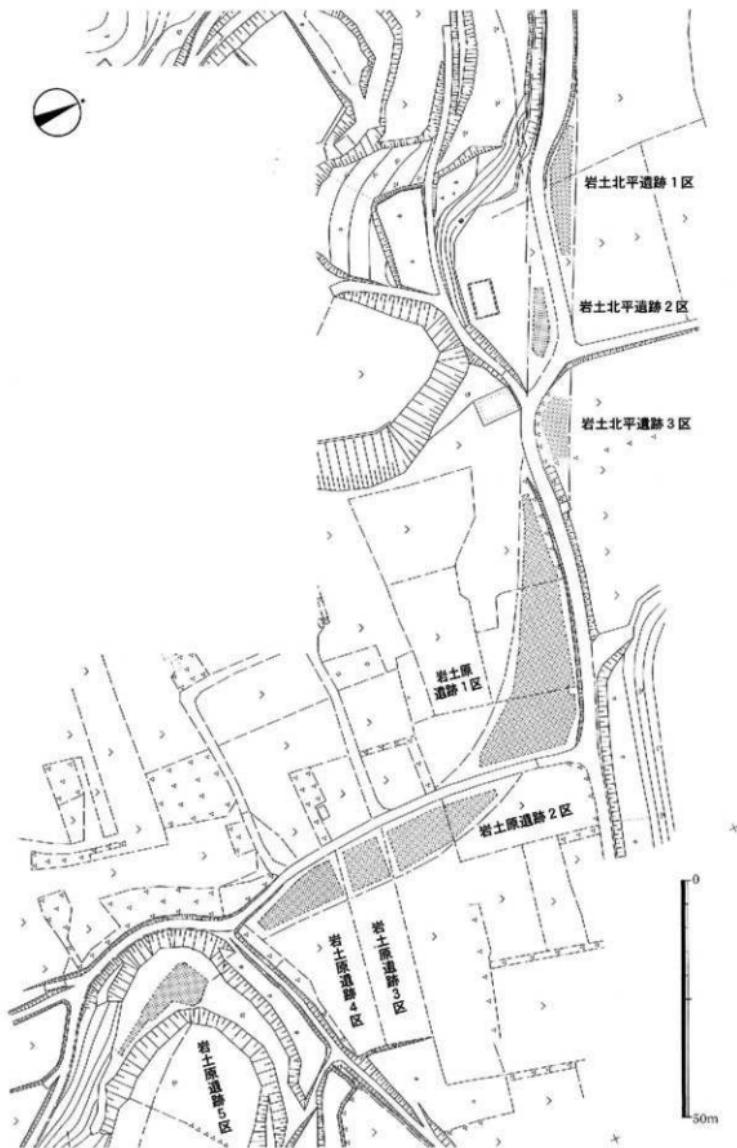
岩土原遺跡もアカホヤ層が確認されたのは1・4・5区の一部で、耕作による改変を大きく受けている。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構14基、多数の焼土集中部及び焼土の集中部1ヶ所、土坑1基を検出した。古墳時代では古墳時代の竪穴住居跡1軒を一部検出するに止まった。1・2・4区でもローム層中に、縄文時代早期包含層の影響を確認している。3区では、土坑を9基検出したが、耕作による影響も大きい。遺物の大半は1区から出土した縄文時代早期の遺物が占め、新最終処分場建設に伴う発掘調査で多く出土した縄文時代晚期の遺物は少ない。また、削平の影響からか、弥生～古墳時代及び中世の遺物も少ない。陶磁器は、小破片が多い。

岩土原遺跡は、昭和44年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ、流紋岩製の半船底型細石核と隆帶上に爪型文を施した土器が共存して出土した学史上的の遺跡である。今回、岩土北平遺跡3区、岩土原遺跡2区・3区でトレーンチ跡を検出した。発掘作業員の中に当時を覚えておられる人がいて、当時発掘した跡であることを確認した。周辺の掘り下げには慎重を期したが、流紋岩製の半船底型細石核と隆帶上に爪型文を施した土器は検出できなかった。

2. 基本層序

岩土北平遺跡、岩土原遺跡の基本層序は以下の通りである。

- I層…表土層もしくは耕作土（約20cm）
- II層…埋土（約20～80cm）畑地の整地用
- III層…茶褐色土層。バサつく。ほとんど残存していない。
- IV層…黒色土層。バサつく。ほとんど残存していない。
- V層…アカホヤ層（約20cm）
- VI層…黒褐色土層（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。
- VII層…黄褐色土層（約20cm）粘質。旧石器時代の遺物が出土。
- VIII層…A T層（約20cm）
- IX層…黒褐色土層。（約20～50cm）今回の調査では遺物の出土はなかった。3～5cmのブロック上を呈する。
- X層…黄褐色土層。粘質。小砂利を多く含む。上部で石器が出土する遺跡の調査例が、県北地域でも増えている。



4. 調査区位置図 (S=1/1,000)

遺構名	頁	長軸	短軸	深さ	出土遺物	備考
1号集石遺構	9	0.88	0.79	0.14	なし	敷石あり 一部カク乱
2号集石遺構	17	0.58	0.58	0.16	なし	敷石あり
3号集石遺構	17	0.46	0.44	0.18	石器	敷石あり 4号と近接
4号集石遺構	17	0.52	0.52	0.16	なし	敷石あり
5号集石遺構	17	0.85	0.58	0.34	土器	敷石あり
6号集石遺構	17	0.77	0.58	0.10	なし	敷石なし
7号集石遺構	17	1.20	1.08	0.21	石器・土器	敷石あり 浅い埋込み
8号集石遺構	18	1.36	(1.20)	0.22	土器	敷石あり 一部カク乱
9号集石遺構	18	1.24	1.04	(0.70)	なし	敷石あり 10号と近接
10号集石遺構	18	0.92	0.82	0.22	土器	敷石あり 段がつく
11号集石遺構	19	1.06	0.78	0.22	石器・土器	敷石あり
12号集石遺構	19	1.60	0.96	0.34	なし	敷石あり
13号集石遺構	19	0.70	0.50	0.28	なし	敷石あり
14号集石遺構	19	0.78	(0.58)	(0.16)	土器	敷石あり 一部カク乱
1号上坑	-	1.50	0.90	0.20	ビニール袋・キセル・陶器	粘土製 底面に砂粒がたまる
2号土坑	21	(2.44)		(0.24)	石器・土器	一部検出
3号土坑	21	(1.38)	0.70	0.14	石器・土器	一部検出 焼土あり
4号土坑	21	2.62		0.74	石器・土器	一部検出 焼土なし
5号上坑	22	2.94		0.54	石器・土器	一部検出 焼土あり
6号土坑	22	2.96	1.94	0.92	石器・土器	焼土あり 連結土坑
7号土坑	22	(1.62)		0.44	なし	一部検出 焼土あり
8号土坑	22	(1.48)	0.72	0.22	石器・土器	一部検出 焼土なし
9号上坑	22	1.36		0.36	なし	一部検出 焼土なし 段がつく
10号土坑	22	0.86		0.20	石器	一部検出 焼土あり
1号堅穴住居跡	37	2.80	(1.50)	42.00	石器・土器	南東隅に浅い柱穴

() は検出部分の計測値 単位はm

5. 検出遺構一覧表

遺構名	曆年較正用 (yrBP)	1 σ 曆年範囲	2 σ 曆年範囲	炭化材
1号住居跡	1,549±23	437calAD-489calAD (45.5%)	430calAD-566calAD (95.4%)	アカメガシワ
1号住居跡	1,572±23	435calAD-492calAD (49.7%)	425calAD-544calAD (95.4%)	
1号住居跡	1,556±23	436calAD-490calAD (49.1%)	430calAD-557calAD (95.4%)	クリ
3号集石遺構	8,607±35	7613calBC-7582calBC (53.9%)	7716calBC-7575calBC (95.4%)	
4号集石遺構	8,692±35	7723calBC-7632calBC (58.9%)	7789calBC-7597calBC (95.4%)	
1区VI層中炭化材	7,694±32	6532calBC-6497calBC (47.4%)	6595calBC-6446calBC (95.4%)	
2区焼土集中部	8,380±40	7524calBC-7452calBC (45.5%)	7536calBC-7350calBC (95.4%)	
3区焼土集中部	8,270±30	7354calBC-7292calBC (35.5%)	7384calBC-7181calBC (75.2%)	

6. 自然科学分析一覧表

3. 岩土北平遺跡の調査

岩土北平遺跡は、標高80m程のほぼ平坦な台地の南側に位置している。南と東は谷となっている。

調査は、道路拡幅部分を畑の区画に沿って1～3区に設定し、耕作の関係で3→2→1区の順に行った。

1区・2区では耕作上を除去するとローム層となり、アカホヤ層は3区の一部に残るのみであった。

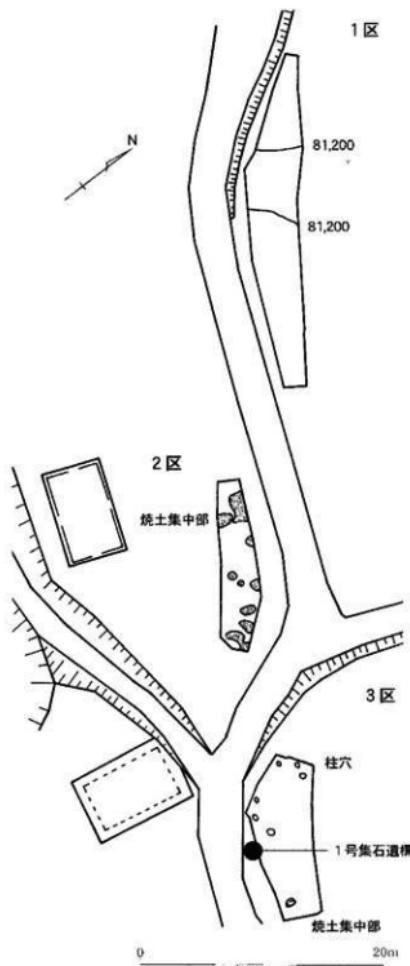
1区では、旧石器時代及び縄文時代早期の遺物が若干出土するに止まった。

2区では、ローム層中に縄文時代早期包含層面からの落ち込みを確認した。ほとんどの落ち込みには炭化物及び焼土の集中が見られる。平面形は不定形が多く、明確な掘り込みラインを確認できていない。また、縄文時代早期の他、旧石器時代の遺物の出上が見られる。出土遺物の無いものが多い。

3区では、集石遺構1基と時期不明の柱穴を若干検出したにとどまった。集石遺構は敷石のみの検出である。一部、茶の根により搅乱されている。集石遺構内よりの出土遺は無い。柱穴内も同様である。北側には、南九州短期大学により調査された昭和43年当時と思われるトレンチ痕を確認した。若干拡幅したが、壁面での遺物の出上は確認していない。

岩土北平遺跡では、旧石器時代の出土遺物は少ない。流紋岩製の使用痕剥片（1）と、ホルンフェルス製の礫器（2）等が出土している。礫器は自然面をグリップ部としており、風化が進んでいる。ローム層を掘り下げたが、ナイフ形石器等の出土遺物はなかった。

縄文時代早期の遺物として石鏃、スクレイバー、磨石、石斧、尖頭状石器、石錐、磨石、磨製石斧、貝殻条痕文・押型文・より糸文・網文土器が出土している。石材としては、流紋岩、ホルンフェルス、チャート、黒曜石、砂岩、花崗斑岩等を利用している。押型文土



7. 岩土北平遺跡遺構配置図 (S=1/400)

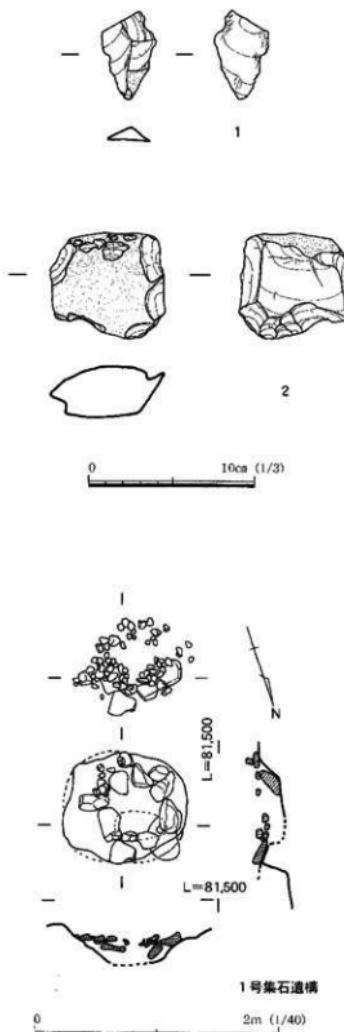
器の文様は、楕円文が主体で、格子文は出土していない。

その他の時代では、縄文時代晩期の黒色磨研土器、古墳時代の甕口縁部、時期不明の土錐が出土している。縄文時代早期に比べ、他の時代の遺物は極端に少ない。中近世の遺物も同様である。陶磁器については、35、出土陶磁器一覧表及び37、出土陶磁器類の写真にまとめている。

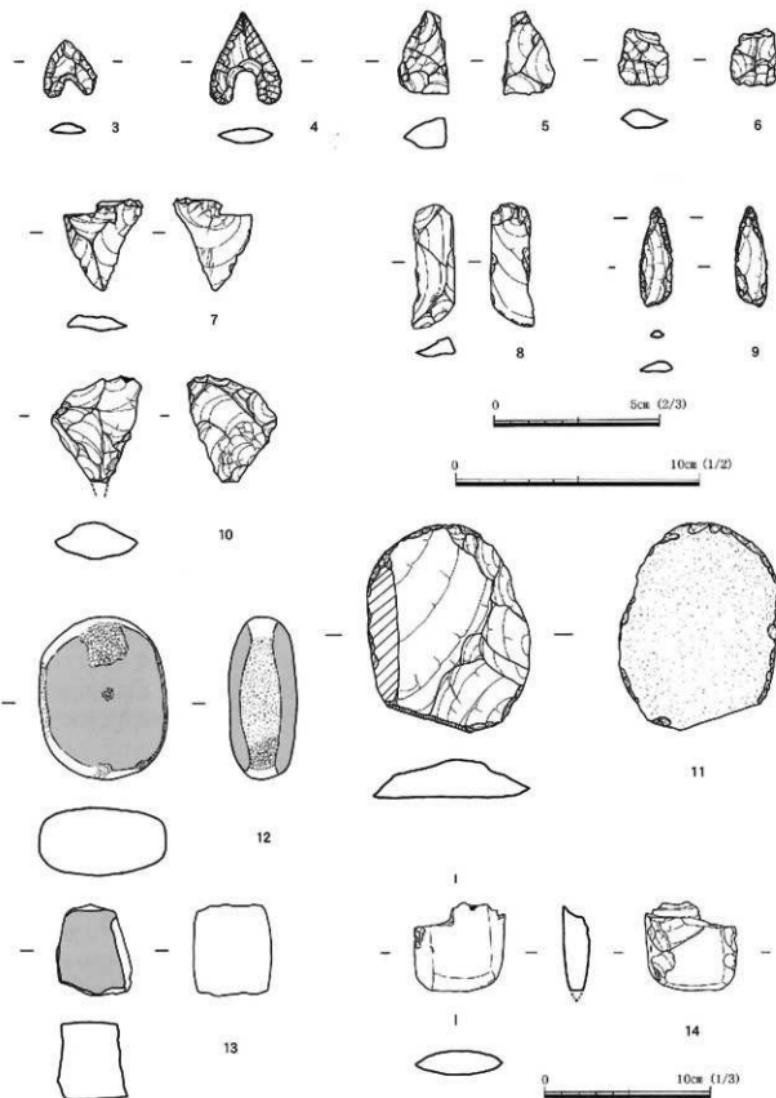
364の龍泉窯系青磁の端反碗、371の漳州窯青花皿、374の褐釉陶器壺、376の大日茶碗、381の肥前系時期の染付丸碗及び387の小杯が出上している。(陶磁器の同定は、宮崎県文化財課 堀田孝博氏による)

岩上北平の南側の谷の西側には上田下台地から伸びる尾根があり、周辺に点在していた五輪塔等が寄せられて祀られている。3区の柱穴も当該期のものかもしれないが、出土遺物が無く時期決定はできない。

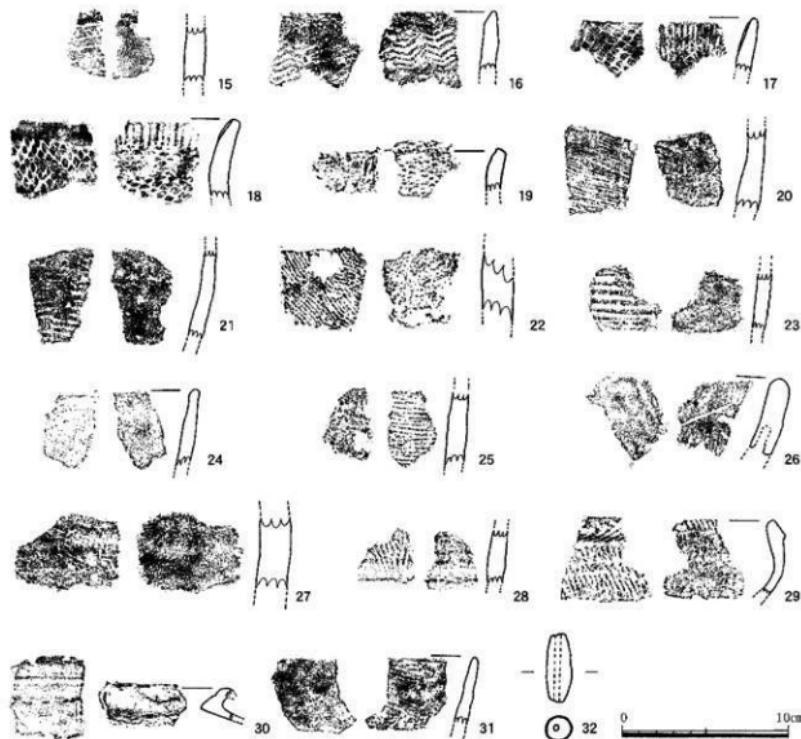
調査中、3区北側の畠の中で箱式石棺が発見され、急速発掘調査が行われた。詳細は不明であるが、北方地区では五ヶ瀬川南側での調査初例であり注目される。3区の南側には塚があったとの伝承が残り、上田下遺跡では須恵器の出土も見られることから、当該期の遺構が残存する可能性が高いと思われる。周辺の開発には十分注意する必要がある。



8. 岩土北平遺跡出土遺物実測図① (S=1/3)
岩土北平遺跡集石遺構実測図① (S=1/40)



9. 岩土北平遺跡出土遺物実測図② ($S=1/2 \cdot 1/3 \cdot 2/3$)



10. 岩北平遺跡出土遺物実測図③ (S=1/3)

4. 岩土原遺跡の調査

調査の概要

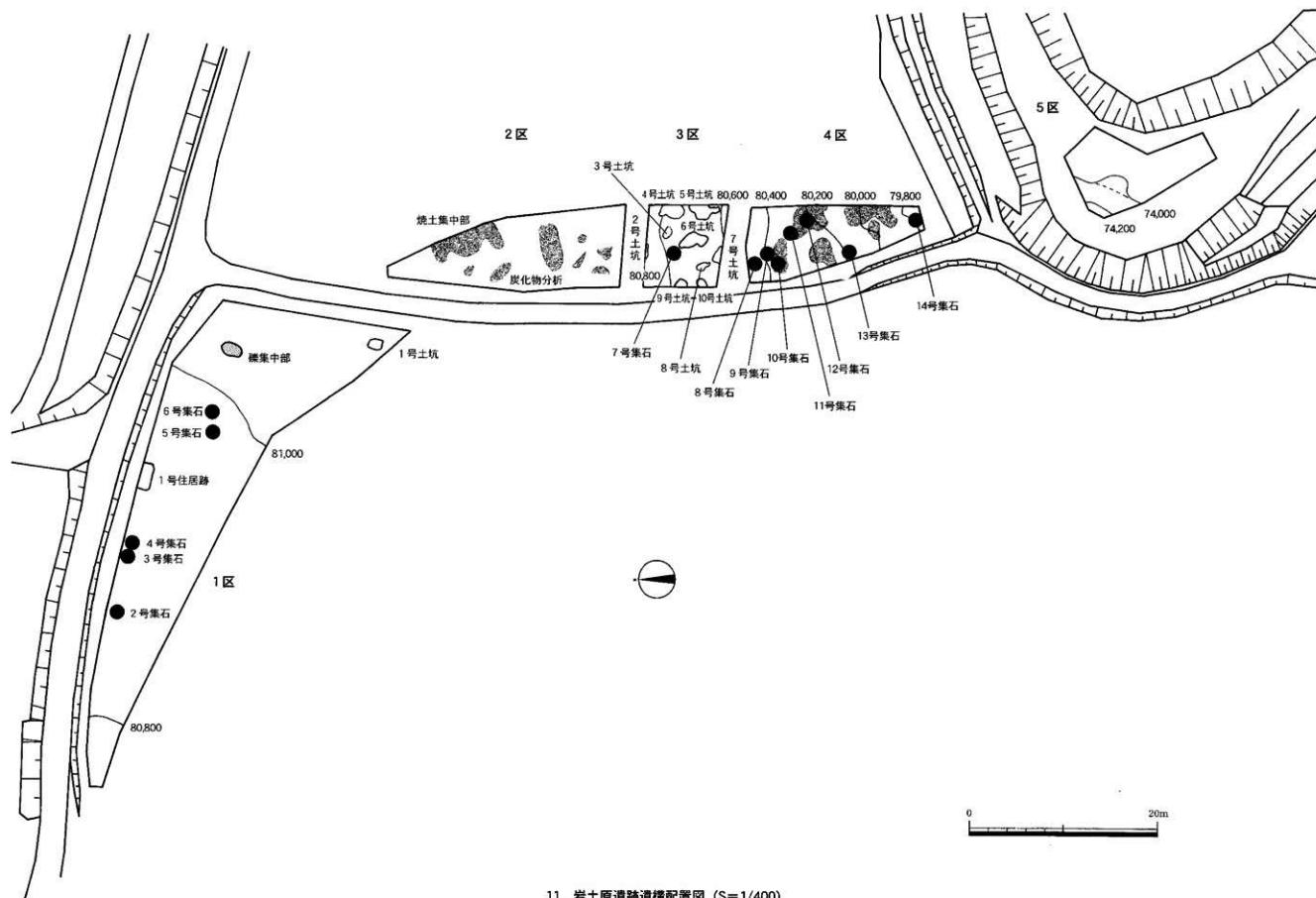
遺跡は、五ヶ瀬川右岸の標高70~80m前後の段丘上に位置している。調査は、市道岩土原線の拡幅部分を崩土防止や農耕車両の安全通行を考慮し、5地区に設定して行った。1区から3区は、耕作による削平が進みほぼ平坦である。4区はやや南側に緩やかに下る斜面上に位置するが、アカホヤ層は一部を除き残存していなかった。5区は台地に挟まれた谷頭に当たり、段々畑にするために大幅な改変が行われている。埋土中より流紋岩の剥片や陶磁器等が出土した。

岩土原遺跡は、昭和43年に南九州短期大学によって発掘調査が行われ、流紋岩製の半船底型細石核と墻帶上に爪型文を施した土器が共伴して出土した学史上の貴重な遺跡である。層位的に3つの文化層が確認されている。第1文化層では、縄文時代早期後半の押型文土器とそれに伴う石器群が検出され、第2文化層では、墻帶文土器と船野型細石核が共伴している。また、第3文化層では安山岩、流紋岩の剥片を素材とする石器に加えて不整形の剥片などを組成とする一群が検出されている。今回の調査では、その時のものと思われるトレント跡を岩土北平遺跡3区、岩土原遺跡2区・3区で検出した。発掘作業員の中に当時を覚えておられる人がいて、当時発掘した跡であることを確認した。周辺の掘り下げには慎重を期したが、流紋岩製の半船底型細石核と墻帶上に爪型文を施した土器は検出できなかった。

遺構と遺物

アカホヤ層が確認されたのは1・4・5区の一部で、耕作による改変を大きく受けている。調査の結果、縄文時代早期の集石遺構13基、多数の焼土集中部及び焼礫の集中部1ヶ所、土坑10基を検出した。古墳時代では後期の竪穴住居跡1軒の一部検出するに止まった。縄文時代早期の集石遺構は1区の西側と北側、4区で検出した。台地が緩やかに傾斜する斜面上にあたり、アカホヤ層の削平が免れたことが早期の包含層や集石遺構の残存状態が良かった一因としてあげられる。1区の南側と2区・3区は表土層を除去すると、ローム層が検出された。岩土原でも、岩土北平と同様にローム層中に縄文時代早期の包含層の落ち込みが確認されている。3区では、土坑を9基検出したが、耕作による影響も大きい。

遺物では、旧石器時代の細石刃・細石核や使用痕剥片、縄文時代早期及び中期・後期・晚期の石器・土器が出土した。また、弥生時代中期の中溝式土器の甕口縁部、古墳時代後期では、壺・甕・鉢・高杯等が出土している。また、中・近世では陶磁器が、時期は特定できないが土器・石鍤等も出土している。遺物の大半は1区から出土した縄文時代早期の遺物が占め、新最終処分場建設に伴う上田下遣で多く出土した縄文時代晚期の遺物は少ない。また、削平の影響からか、弥生～古墳時代及び中近世の遺物も少ない。中近世では遺構の検出は無く、耕作土中より陶磁器が出土したが、一部を除き小破片が多い。陶磁器の同定には、宮崎県文化財課の堀田孝博氏による調査指導を受け、35、出土陶磁器一覧表にまとめた。14世紀後半～幕末まで長い期間生活の場として使用されたことが、陶磁器を通して推察されるということであった。陶磁器の中には、中国製、関西系のものも見られることから瀬戸内海航路を通しての交流や豊後大友氏、堺商人との関係も伺えるとの指摘を受けた。岩土北平遺跡に西側の上田下遺跡から派生する南側の尾根上には五輪塔群も確認されていることから、周辺には中近世の良好な生活空間が残っている可能性も高いと判断され、今後の開発には十分注意する必要がある。



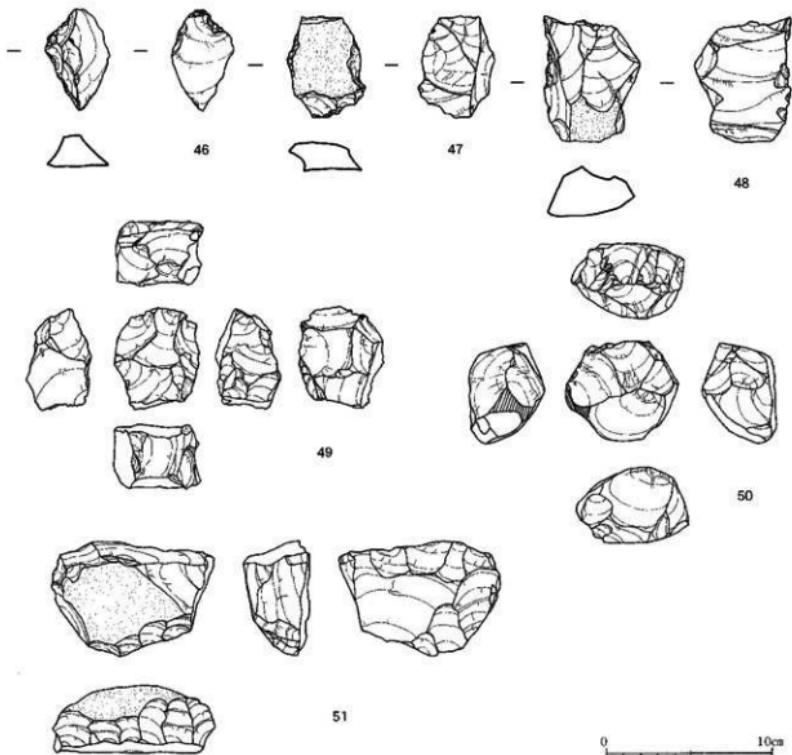
11. 岩土原遺跡遺構配置図 (S=1/400)



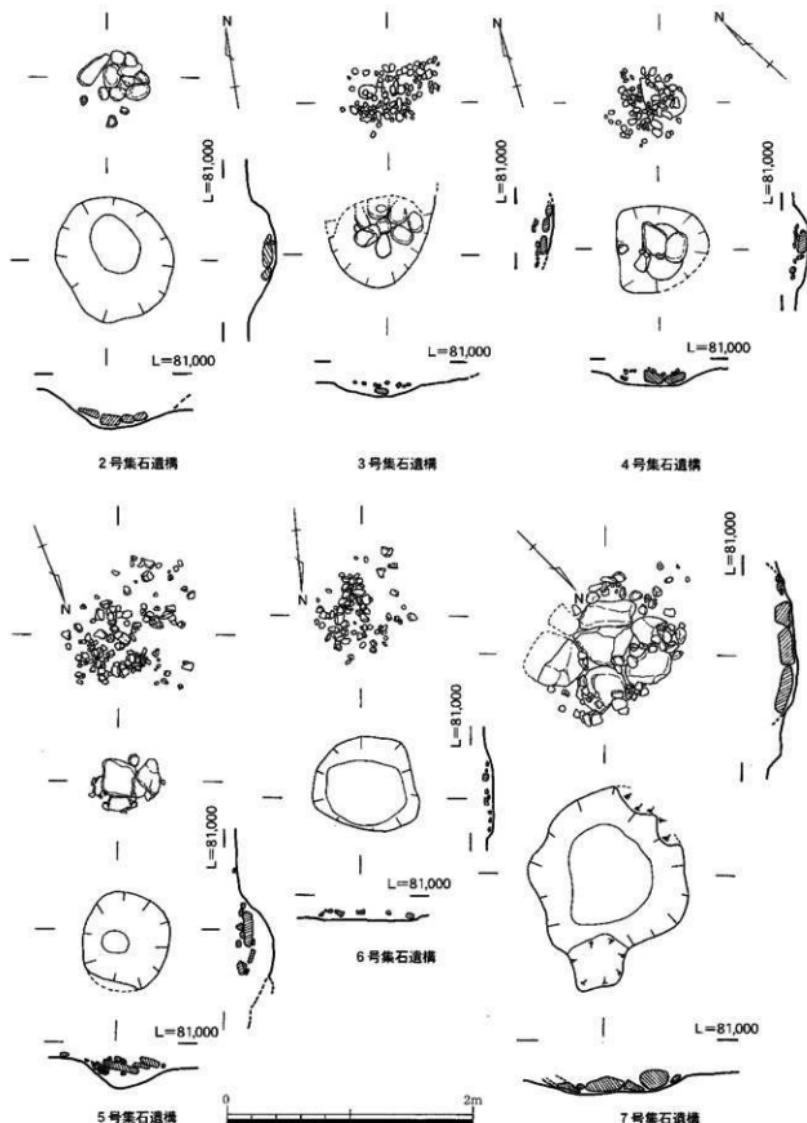
12. 岩土原遺跡出土遺物実測図① (S=1/2・1/3・2/3)

旧石器時代の遺物として細石刃、細石核、使用痕剥片、スクレイパー、加工を有する剥片、礫器、石核等が主にⅧ層上面から出土しているが、量的には多くない。石材としては、流紋岩を主体としてホルンフェルス、黒曜石の使用が認められる。流紋岩製の細石核は船野型ではなく、スクレイパーの側面に剥離面が見られるものである。また、黒曜石製の小型三角形を呈する板状の剥片を利用した細石刃核が出土している。打面を順繰りに回転しながら細石刃を剥離し、自然面はそのままで調整剥離も行わないシンプルな石器である。今回の調査で出土した細石刃は、ホルンフェルス製の1点のみで、黒曜石製・流紋岩製の細石刃は出土していない。降帯文土器の出土も無かった。

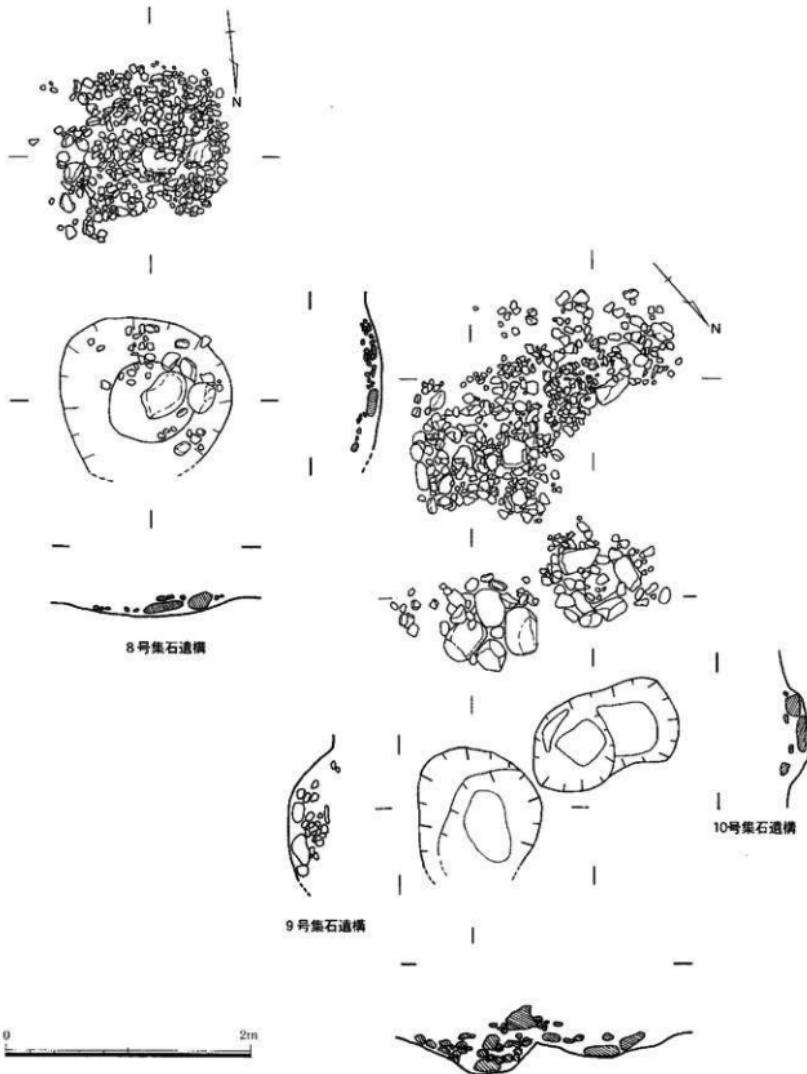
旧石器時代の遺物は縄文時代早期の包含層や堅穴住居跡、集石遺構や土坑、焼土集中部内からの出土例も見られるが、ローム層下位からの遺物の無くナイフ型石器等の出土はなかった。一部トレーナーを掘り下げ白斑ローム下位まで掘り下がたが、遺物・遺物の検出はなかった。



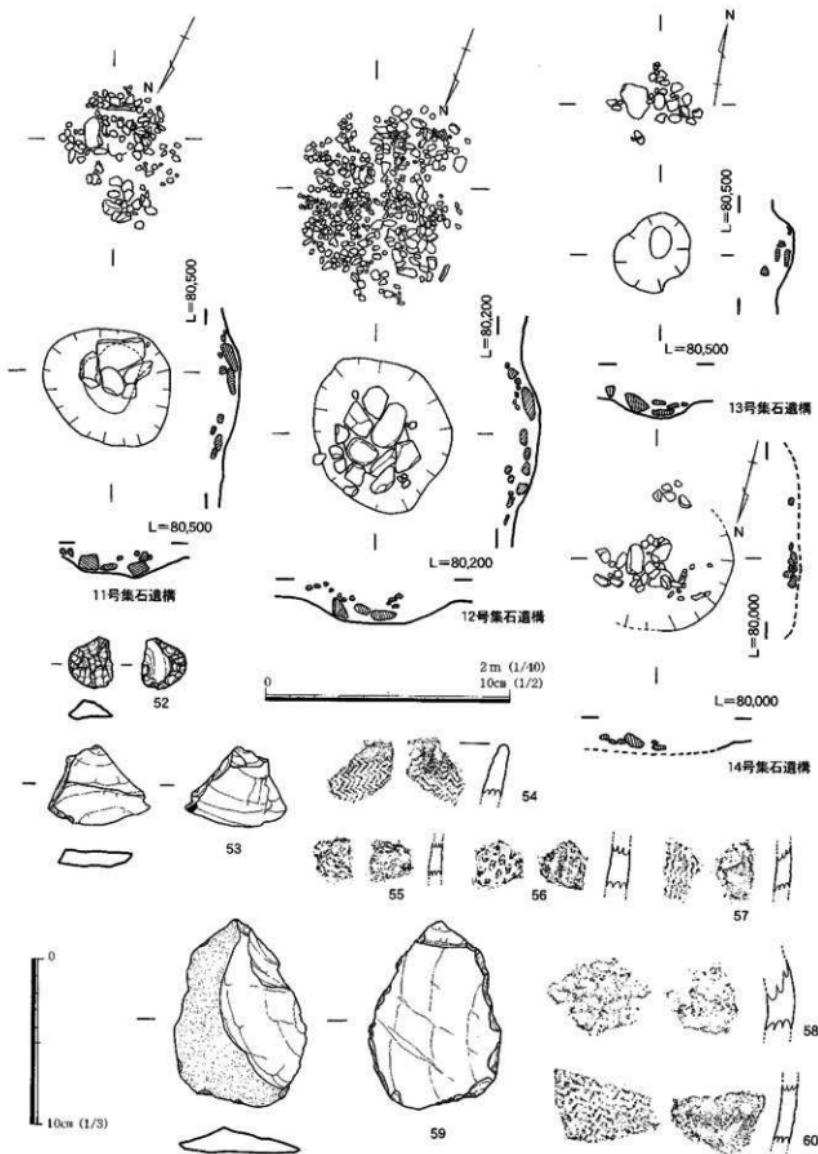
13. 岩土原遺跡出土遺物実測図② (S=1/3)



14. 岩土原遺跡集石遺構実測図① ($S=1/40$)



15. 岩土原遺跡集石遺構実測図② ($S=1/40$)

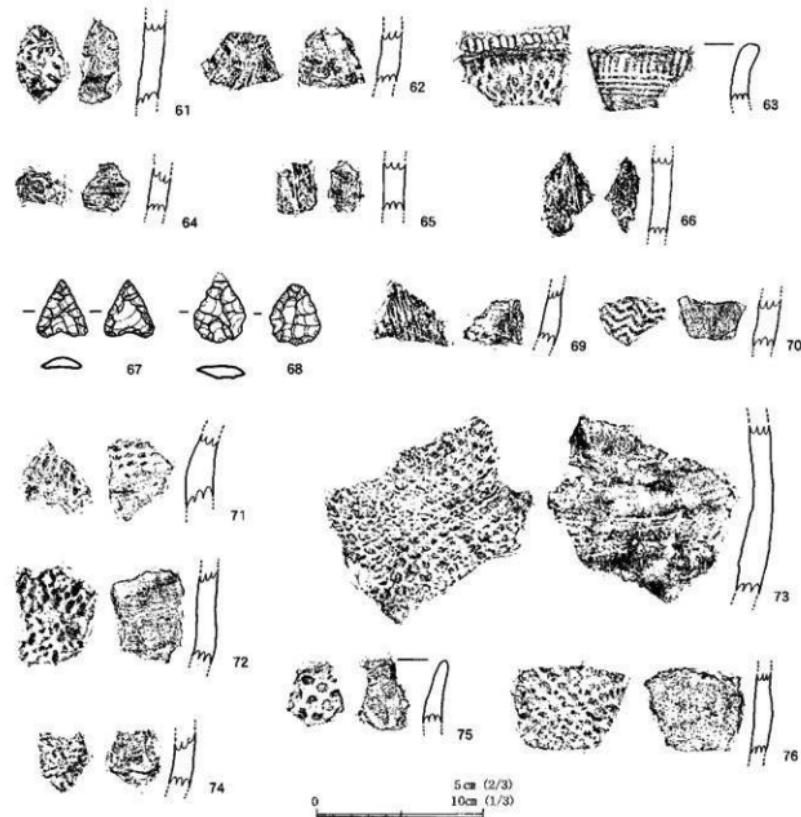


16. 岩土原遺跡集石造構実測図③ ($S=1/40$) 集石造構内出土遺物実測図① ($S=1/2 \cdot 1/3$)

集石遺構

集石遺構は、焼けた礫が円形状に集中し、下部に敷石と掘り込みの見られる遺構であるが、敷石がない事例も多い。本遺跡では、13基の集石遺構を検出した。ほとんどの集石遺構で敷石が確認されている。敷石には扁平な円礫を使用する例（2号）や人頭大の川原石を利用する例（7号）もある。近接する事例が2例（3号・4号、9号・10号）ある。掘り込みはほとんどが20～30cm程度であるが、70cmを測る事例もある。（9号）10号集石遺構には掘り込みに段がつく。

出土遺物には、石器では石鏃、スクレイバー、使用痕剥片等がある。土器はほとんどが押型文土器で、貝殻腹縁文土器、より糸文が若干出土している。1区の東側では焼けた礫の集中部を1ヶ所検出したが、掘り込みは確認できなかった。出土遺物もなく、周囲に礫がまばらに見られる程度である。



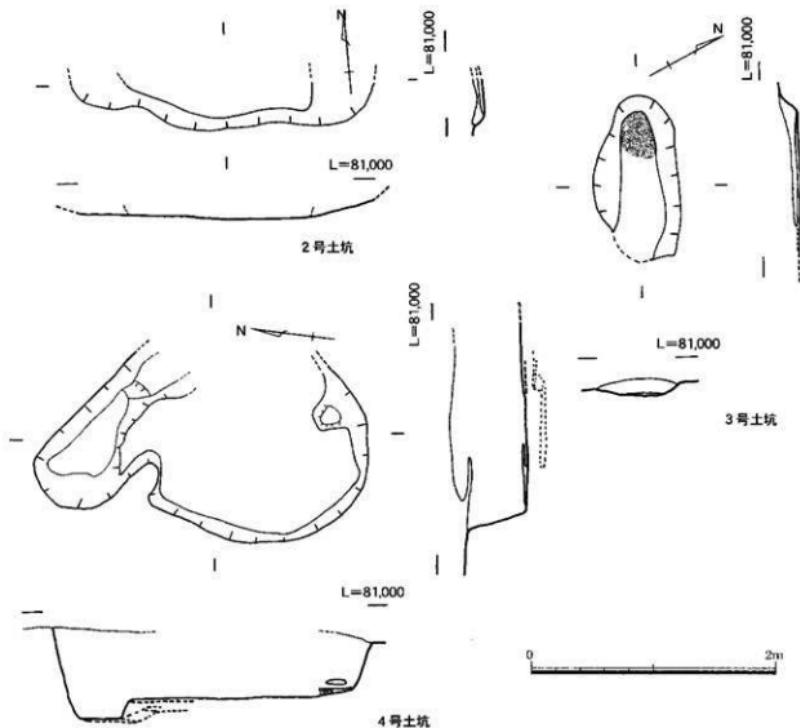
17. 岩土原遺跡集石遺構内出土遺物実測図 (S=1/3・2/3)

集石造構内より出土した炭化物の放射性炭素年代（ ^{14}C 年代）測定を行った（3号、4号）測定の結果、3号集石造構で $8,607 \pm 35$ yrBP、4号集石造構で $8,692 \pm 35$ yrBPの値が得られている。おおむね縄文時代早期中葉もしくはその前後に相当し、出土遺物との差異はない。

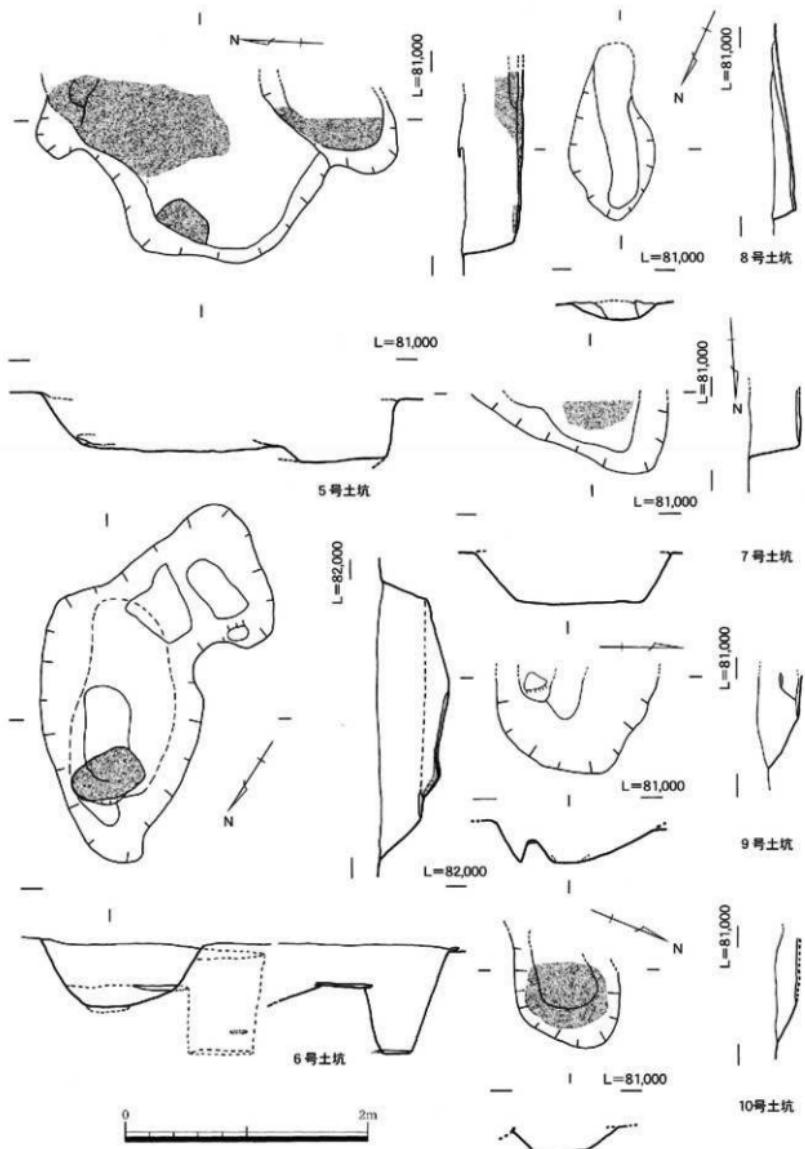
土坑

土坑は、3区で9基確認した。ほとんどの土坑は耕作による影響を受けている。一部調査区外へのびており、完掘できたのは7号土坑のみである。土坑の底部には焼上の集中が見られ、平面形から連結土坑の可能性もある。4号と5号土坑は、掘り込みがしっかりしており床面もフラットである。一部調査区外への伸びているため詳細は不明であるが、連結土坑とは別の機能も考えられる。

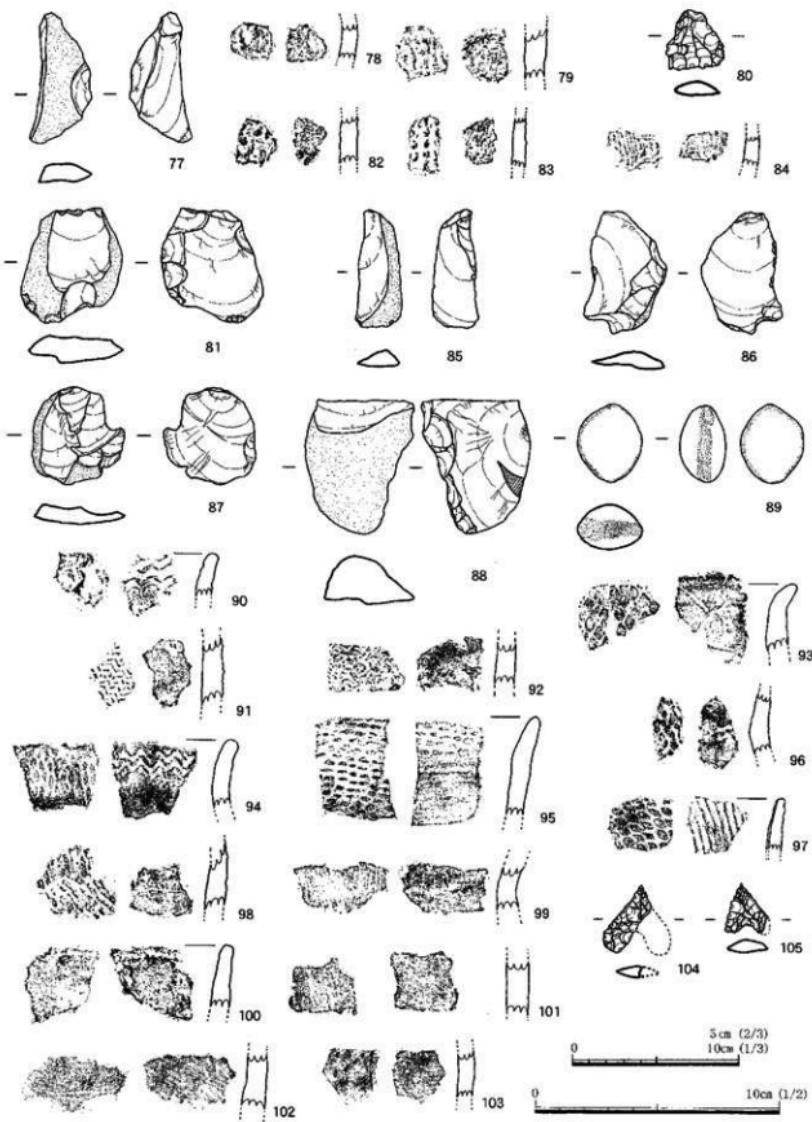
出土遺物には、石鏸、使用痕剥片、スクレイパー、尖頭状石器、貝殻文円筒土器、条痕文土器、より糸文土器、押型文土器等がある。一部旧石器時代の遺物も出土している。



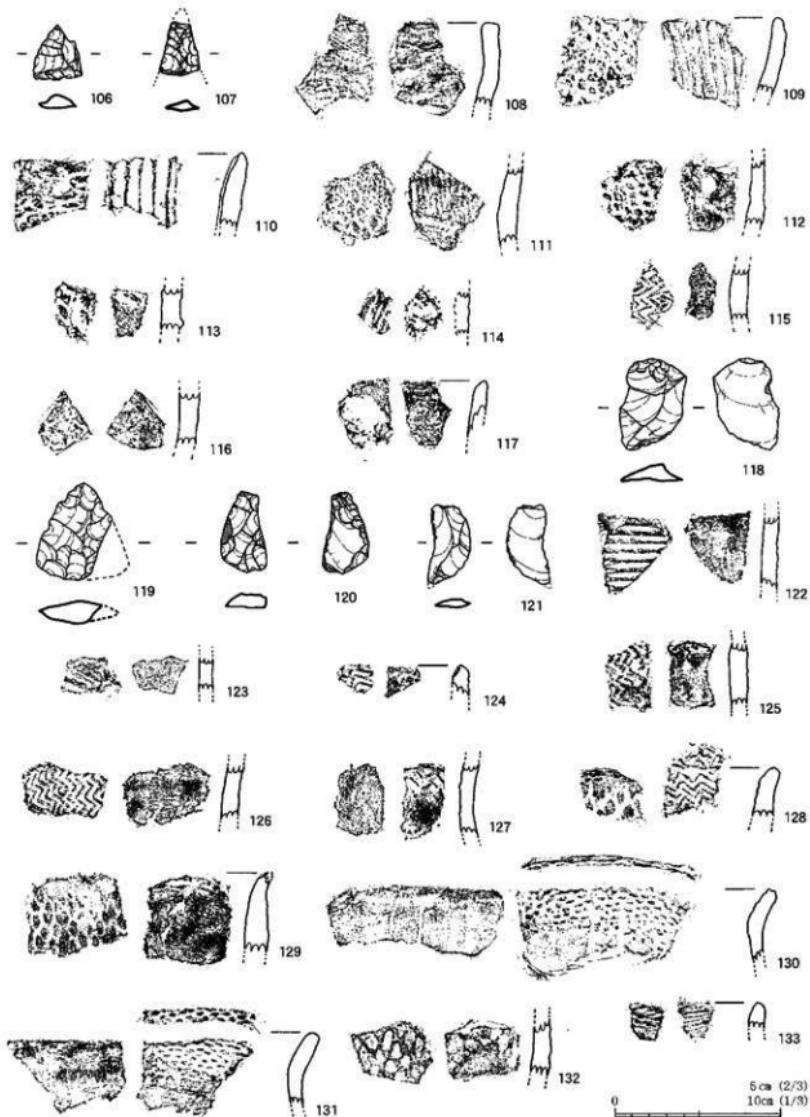
18. 岩土原遺跡土坑実測図① (S=1/40)



19. 岩土原遺跡土坑実測図② (S=1/40)



20. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図① (S=1/2・1/3・2/3)



21. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図② (S=1/3・2/3)

焼土集中部

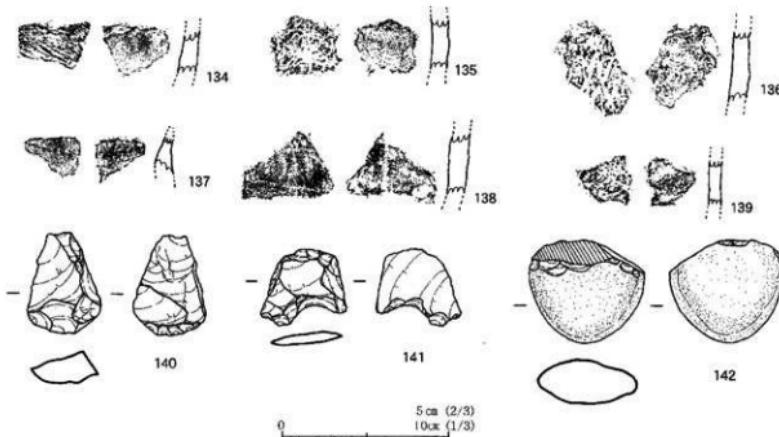
本遺跡でも、1区、2区、4区でローム層中に縄文時代早期包含層面からの落ち込みを確認した。ほとんどの落ち込みには炭化物及び焼土の集中が見られる。平面形は不定形が多く、明確な掘り込みラインを確認できていない。平板による位置及び範囲確認と、断面観察を行った。出土遺物には、石鏟、スクレイバー、敲打器、加工を有する石器、磨石、押型文土器、より糸文土器、貝殻条痕土器が出土している。出土遺物の無いものが多い。

2区と3区の焼土集中部より出土した炭化物の放射性炭素年代（14C年代）測定を行った結果、2区で $8,380 \pm 40$ yrBP、3区で $8,270 \pm 30$ yrBPの値が得られている。

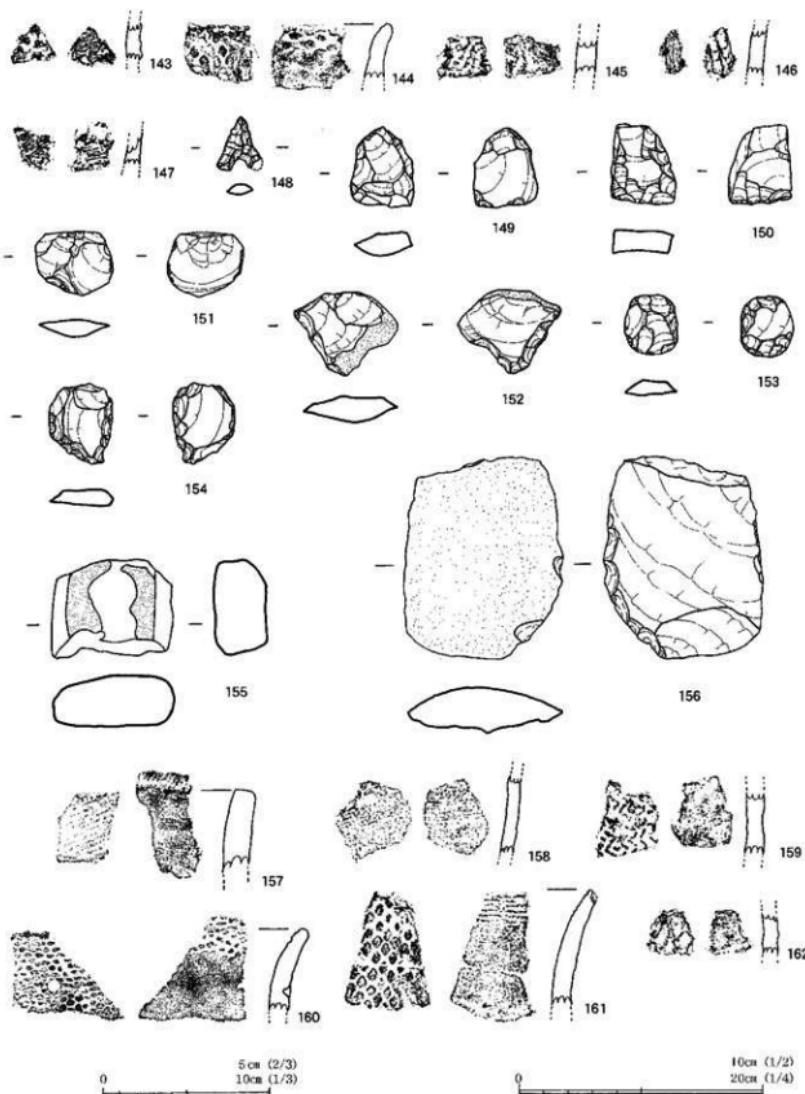
この数値は集石構造の年代とも近く、出土遺物の大半を占める押型文土器の年代である縄文時代早期中葉を示すものである。

岩上原遺跡から出土した遺物の大半は縄文時代早期に相当するものである。VI層はその縄文時代早期の包含層であるが、VI層中より出土した炭化材の放射性炭素年代（14C年代）測定を行った。その結果、 $7,694 \pm 32$ yrBPの値が得られている。早期の遺物はVII層であるローム層上面からも出土している。その逆の例もある。

早期でも、前葉に比定される貝殻条痕文や後葉の塞ノ神式・手向山式土器の出土例は少なく、中葉の押型文土器が圧倒的に多い。この他、より糸文、縄文、無文、松葉折施文、連続刺突文等を施す土器が少量出土している。無文土器には繊維痕が確認されるものがある。押型文土器では、楕円が大半を占め、山形文も少なからず出土するが、格子目は極端に少ない。楕円文と山形文、より糸文を組み合わせたさまざまなバリエーションの押型文が出土している。また、口縁部が直行するものはまれで、ほとんどが外反する。口縁内部には柵状文（原体を縦方向に押引いてつける文様）を施すものや、口唇部に山形文や楕円文を施文する事例もある。柵状文が次第に太くなり凸帯文となる楕円押型文土器（259）も出土している。



22. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図③ (S=1/3・2/3)

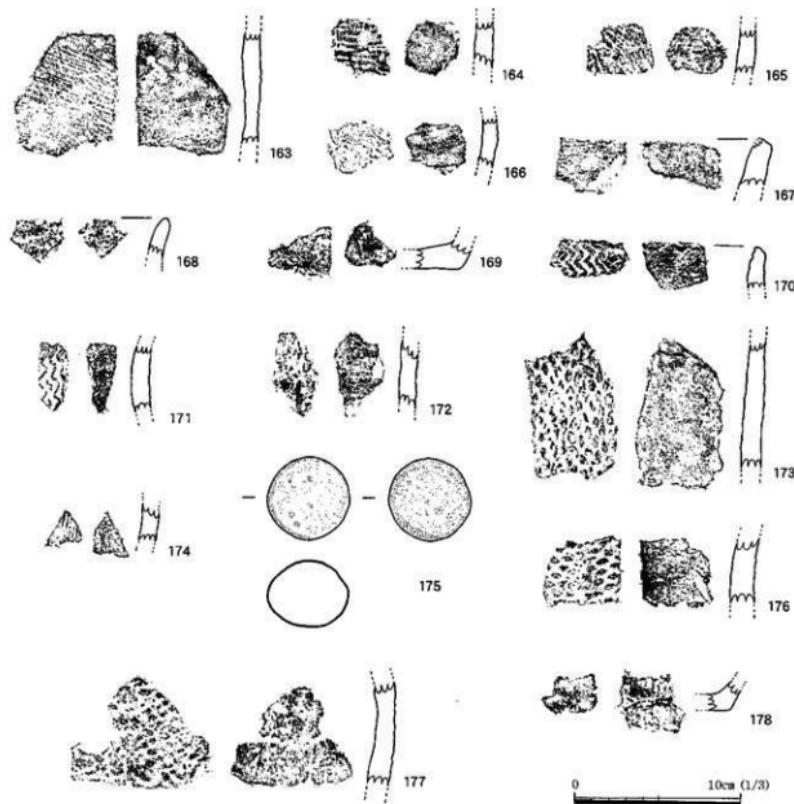


23. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図④ (S=1/2・1/3・2/3・1/4)

石器では、石鏃、尖頭状石器、使用痕剥片、スクレイバー、石錐、加工を有する石器、礫器、石斧（磨製、局部磨製、扁平打製）、叩石、敲打器、磨石、石皿等が出土している。包含層出土以外の石器については、土器と違って明確な時期決定が困難である。

石材として、チャート、赤チャート、黒曜石（産地については不明である）、姫島産黒曜石、流紋岩、ホルンフェルス、砂岩、頁岩、花崗斑岩、凝灰岩等が使用されている。アカホヤ層下位から姫島産黒曜石や砂岩製の礫器の出土例が増加しつつある。砂岩製の礫器については、片面に自然面を残す石器が多い。

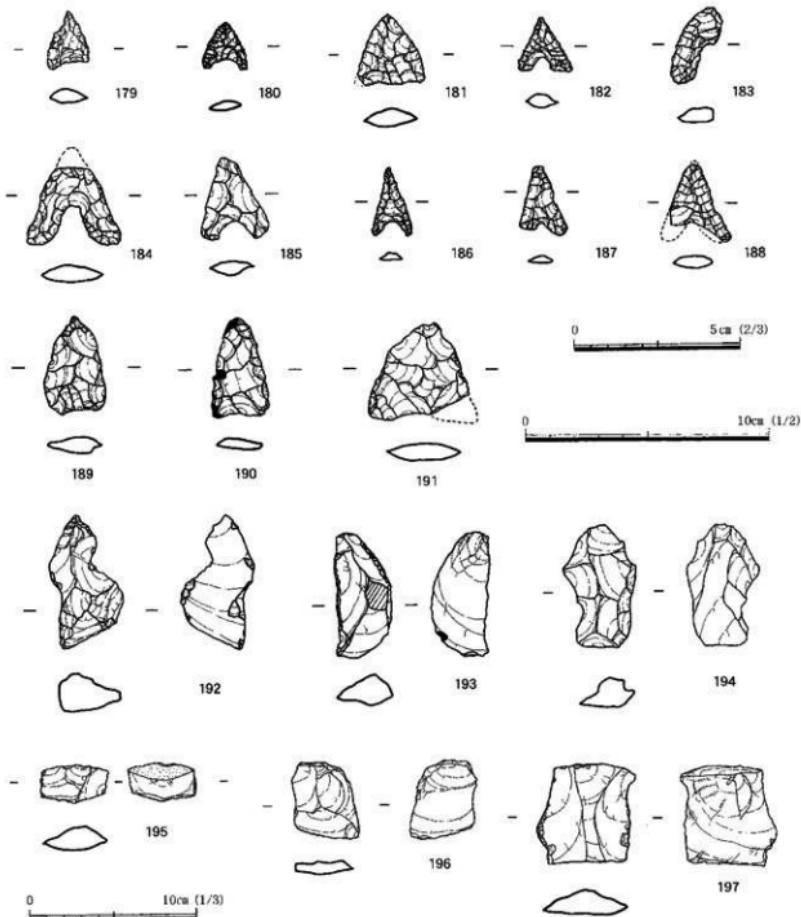
北方地区的遺跡の多くで、叩石、敲打器、磨石、石皿が出土している。山間部での植物性蛋白やでん粉採取を目的とした生活の一端を垣間見るように興味深い。



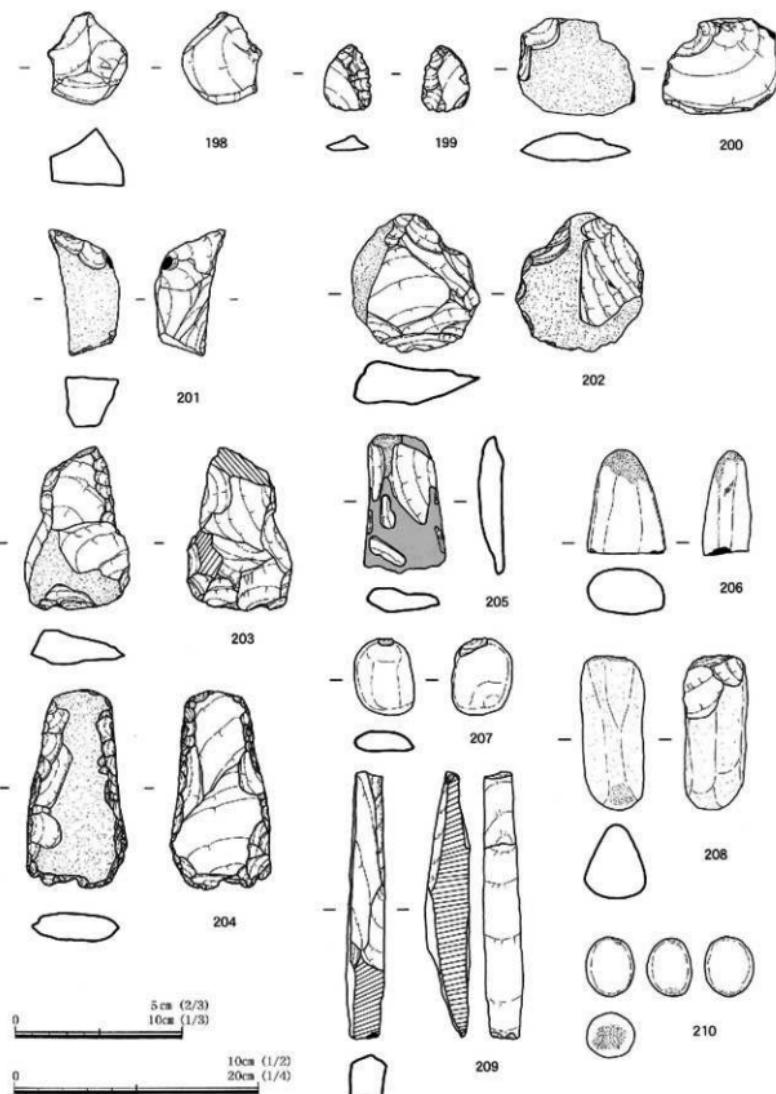
24. 岩土原遺跡土坑内出土遺物実測図⑤ (S=1/3)

叩石、敲打器、磨石、石皿には、受熱の影響による赤変が見られる。

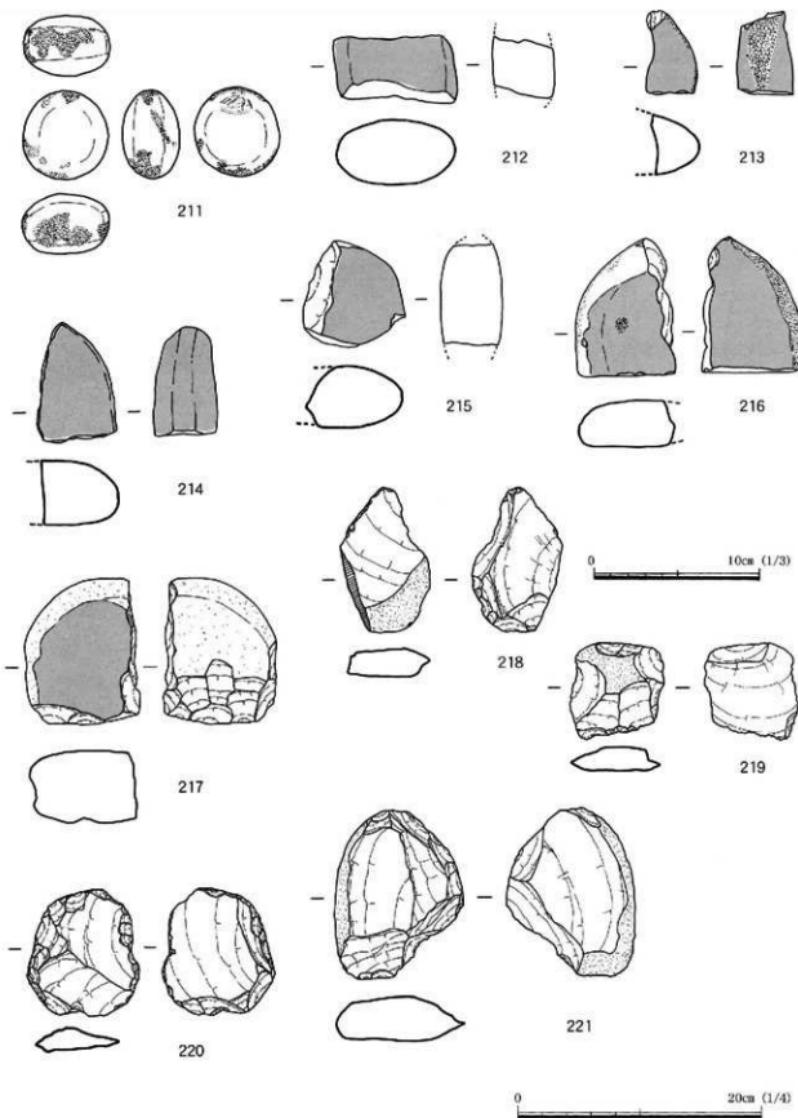
縄文時代前期～晩期の遺構は検出されていない。遺物も埋土中より縄文時代中期の船元式土器、後期の西平系土器、口縁部がやや内湾し沈線施文や貝殻ミガキによる調整が施される南九州系土器、晩期の凸帯文土器等が若干出土している状況である。精製磨研土器は出土していない。圧倒的に多いのは縄文時代早期の遺物である。早期でも、前葉に比定される貝殻条痕文や後葉の手向山式土器の出土例は少なく、中葉の押型文土器が圧倒的に多い。



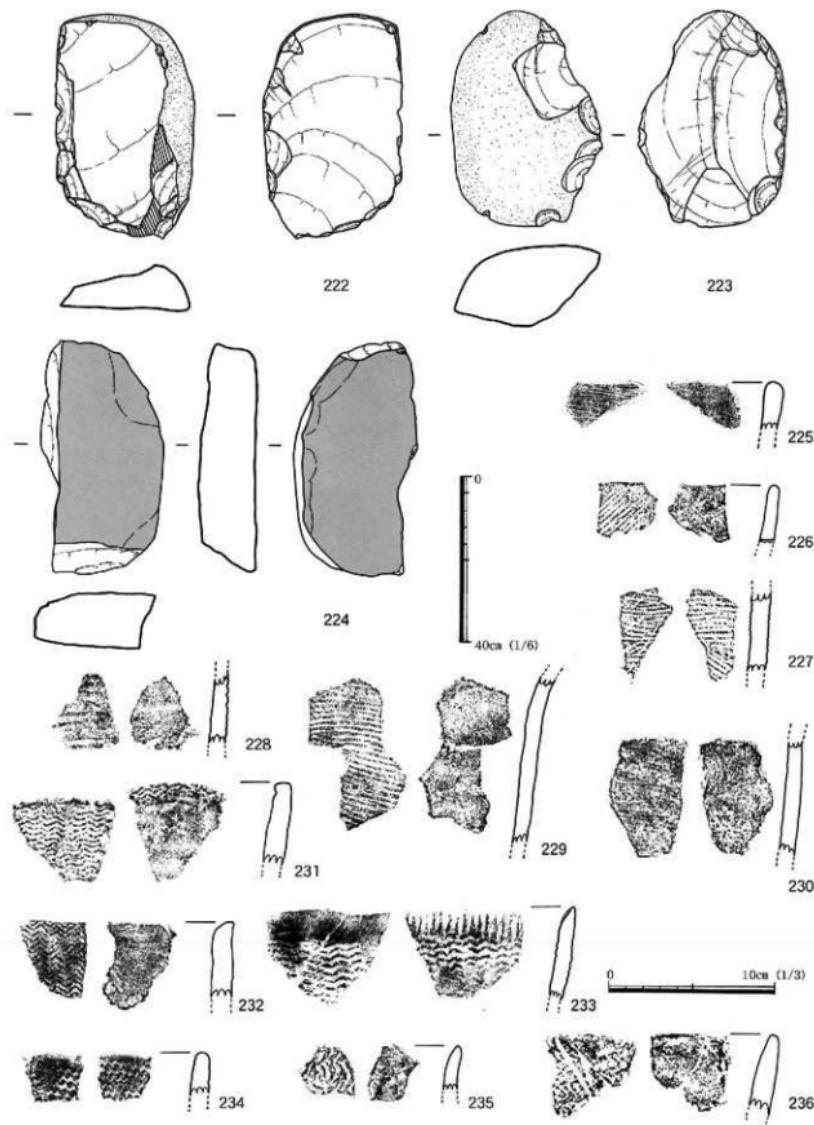
25. 岩土原遺跡出土遺物実測図③ (S=1/2・1/3・2/3)



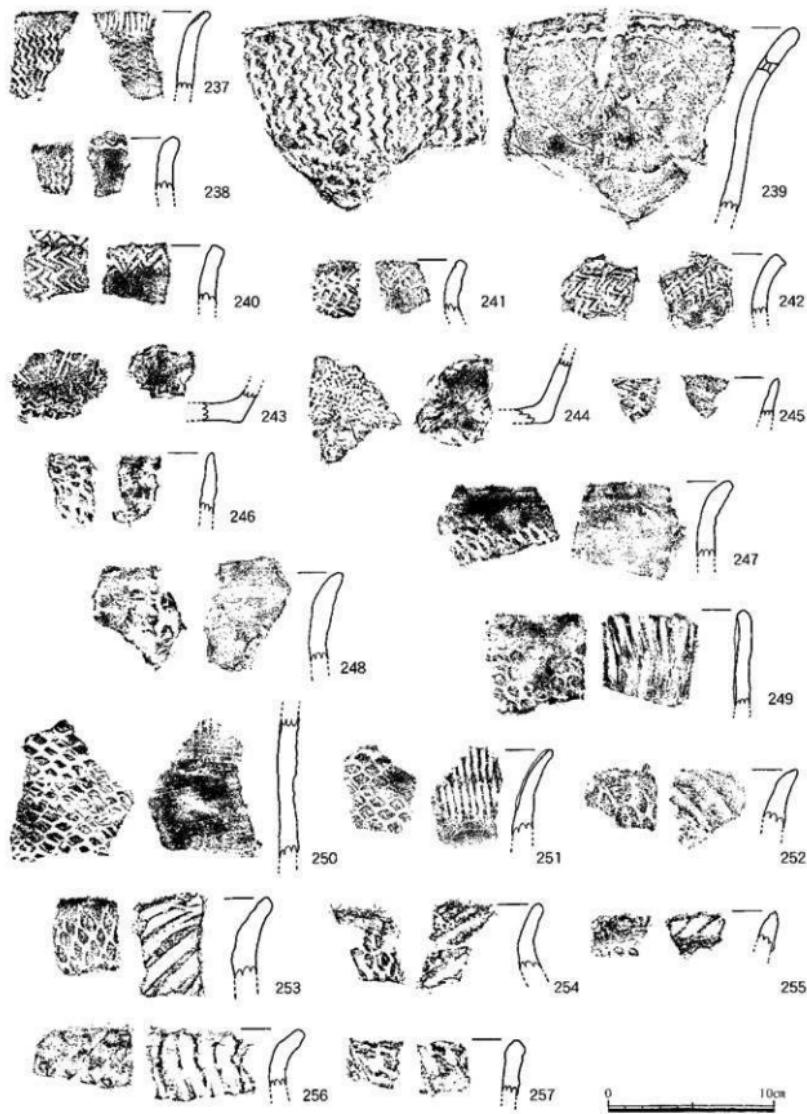
26. 岩土原遺跡出土遺物実測図④ (S=1/2・1/3・2/3・1/6)



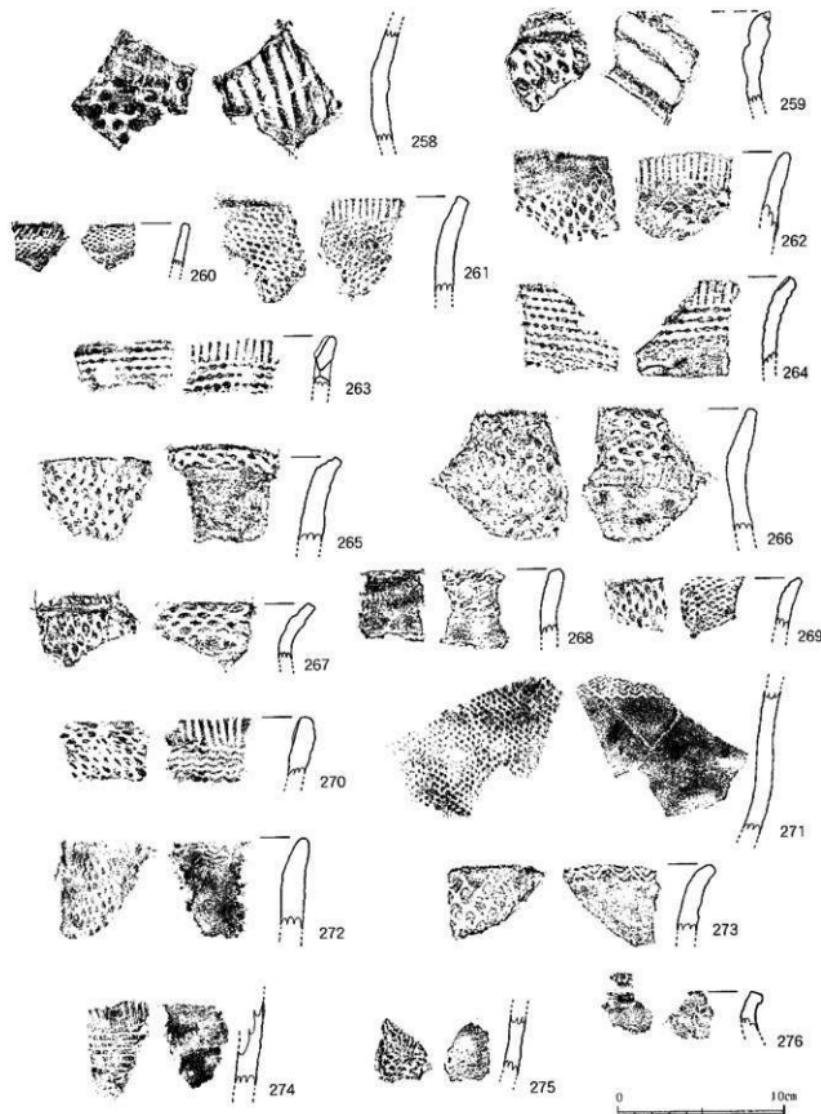
27. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑤ (S=1/3・1/4)



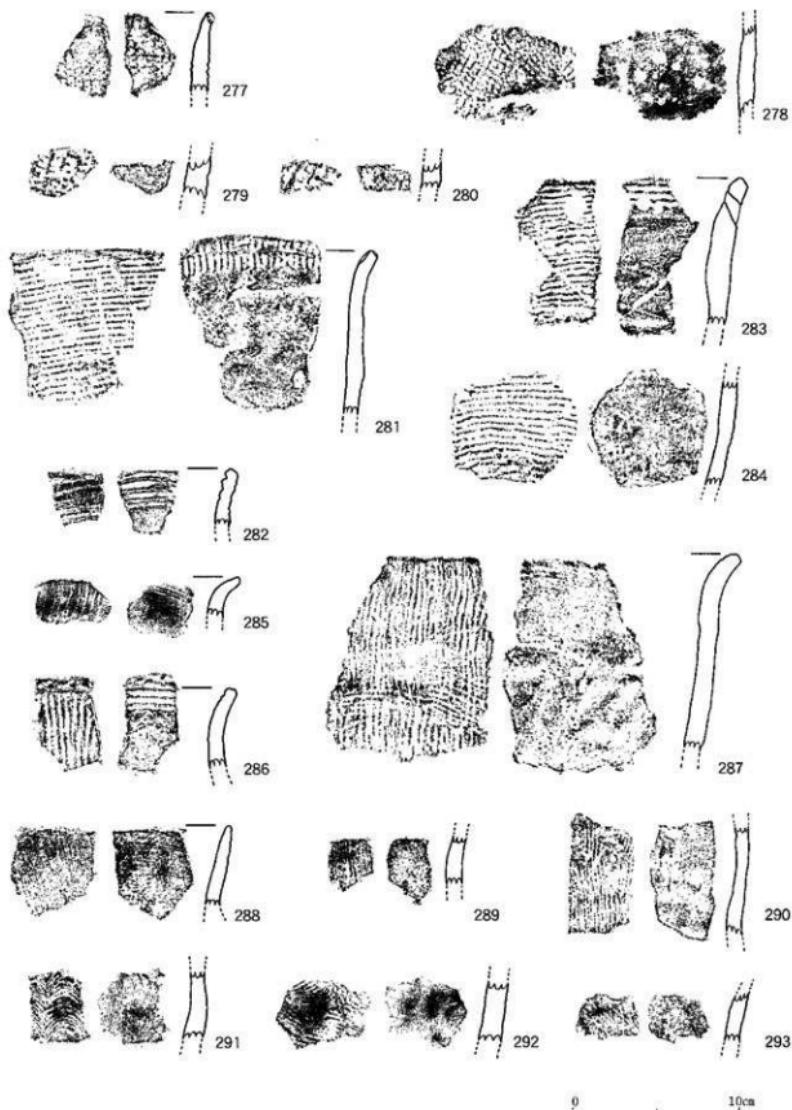
28. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑥ (S=1/3-1/6)



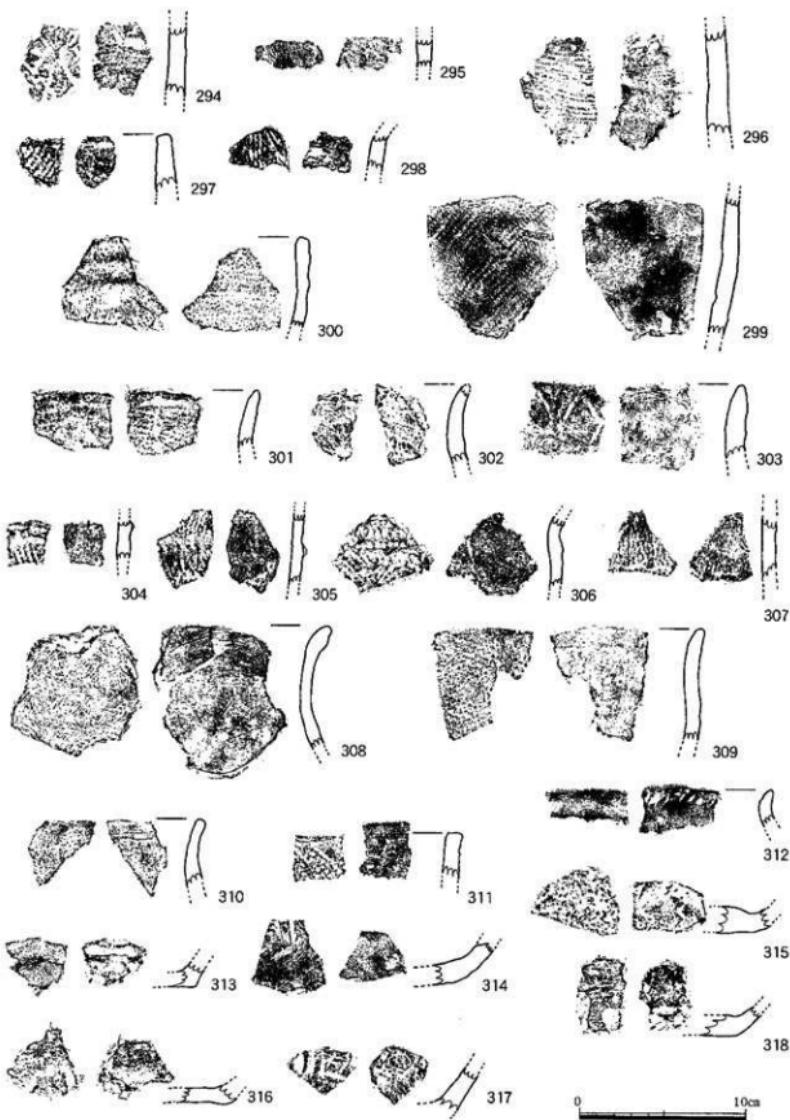
29. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑦ (S=1/3)



30. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑧ (S=1/3)



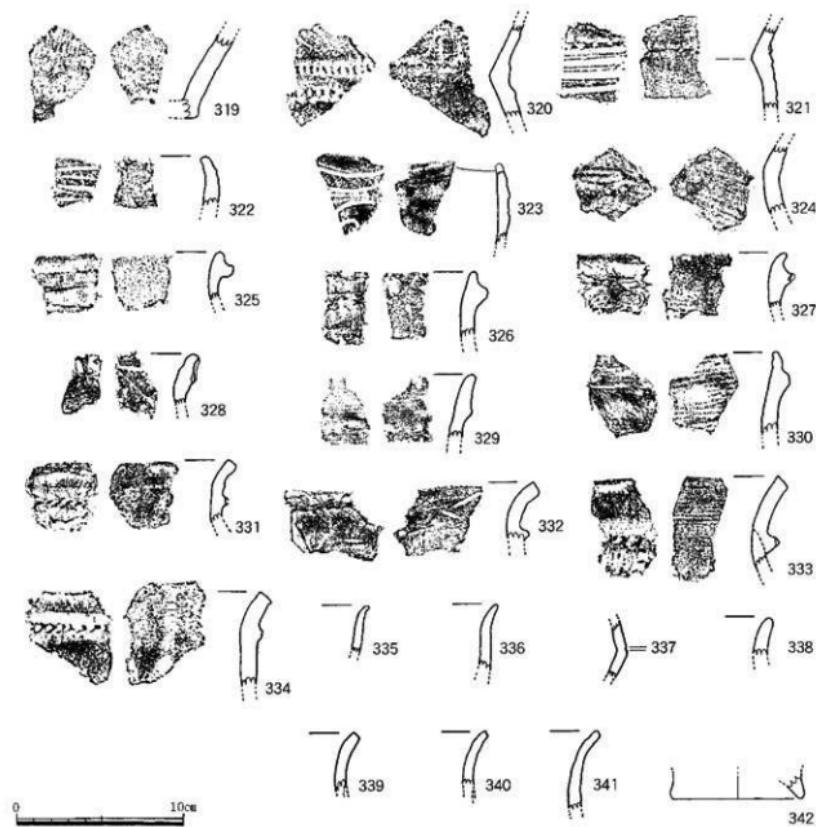
31. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑨ (S=1/3)



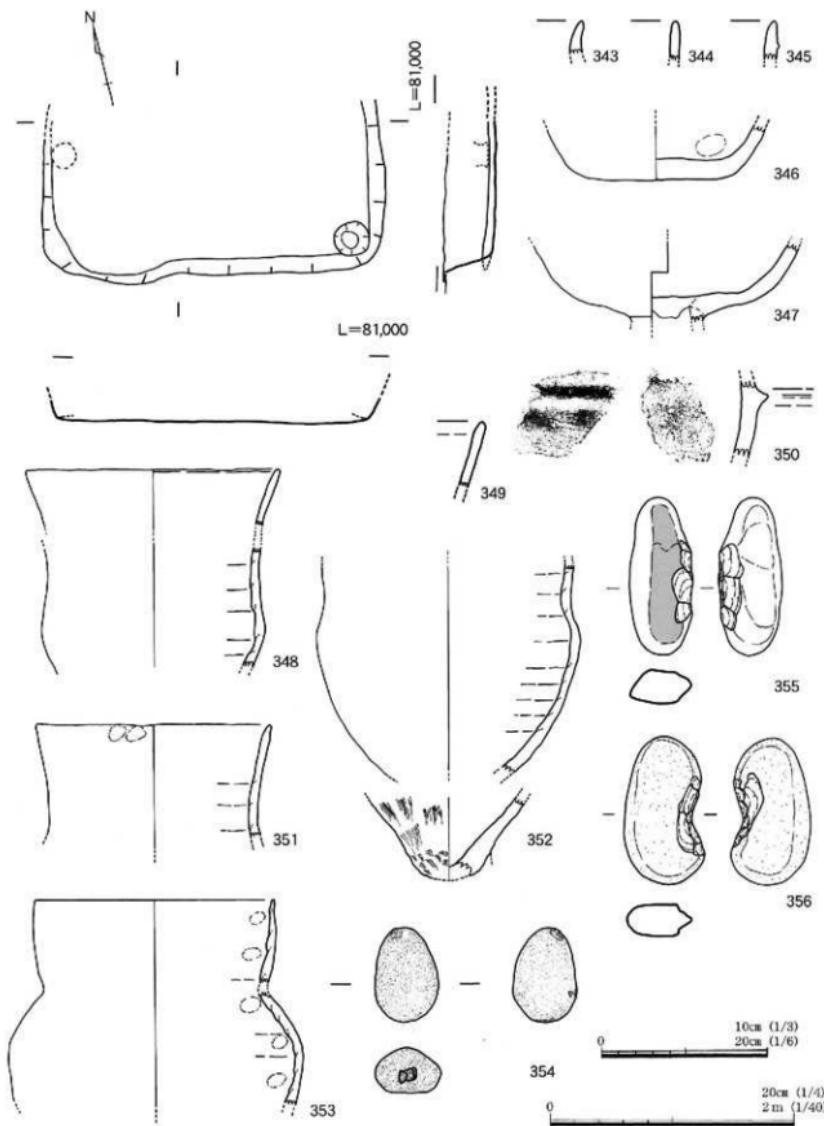
32. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑩ (S=1/3)

弥生・古墳時代の遺構としては、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒のみ一部を検出したのみである。平面形は方形を呈し、1辺の長さは3m未溝の小型の住居跡になると思われる。床面はほぼ平坦で、検出面からの深さは42cmを測る。主柱穴は不明である。出土遺物には、壺、甕、鉢、高杯、砂岩製の敲打器、砂岩及び花崗斑岩製の礫器がある。東南側の壁際に浅い土坑が掘られているが、中より出土遺物はない。353の甕は底部が不明であるが、西側の壁際にふせた状態で出土している。周辺に炭化物や焼土の集中が見られることから、土器炉の可能性も考えられる。全体に埋土中に炭化物や焼土が多く見られ、炭化材も出土していることから焼失家屋の可能性もある。炭化材は樹種同定の結果、アカメガシワとクリであった。建築部材や器具の柄等に利用されたものと思われる。炭化物の分析を行なった結果、425AD～566ADの値がでている。

遺構外の遺物として、中溝式の甕(331～334)の他に、古墳時代後期の甕や壺片が出土している。



33. 岩土原遺跡出土遺物実測図⑪ (S=1/3)

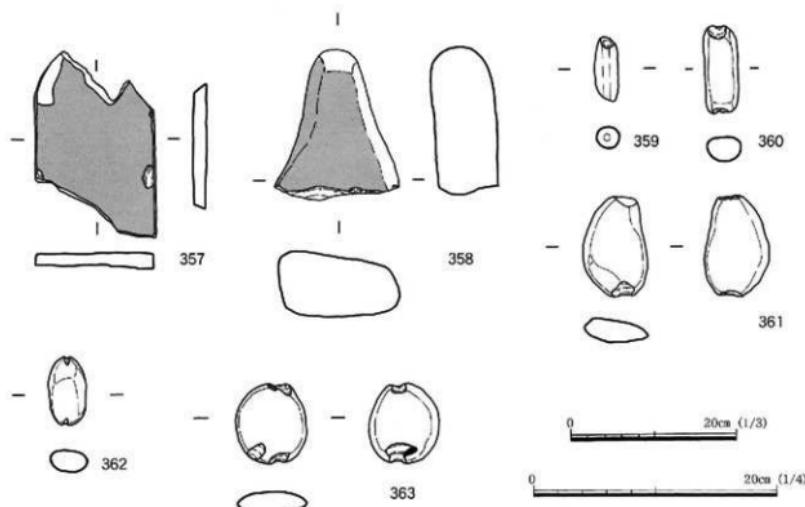


34. 岩土原遺跡堅穴住居跡実測図 ($S=1/40$)
堅穴住居跡内出土遺物実測図① ($S=1/3 \cdot 1/4 \cdot 1/6$)

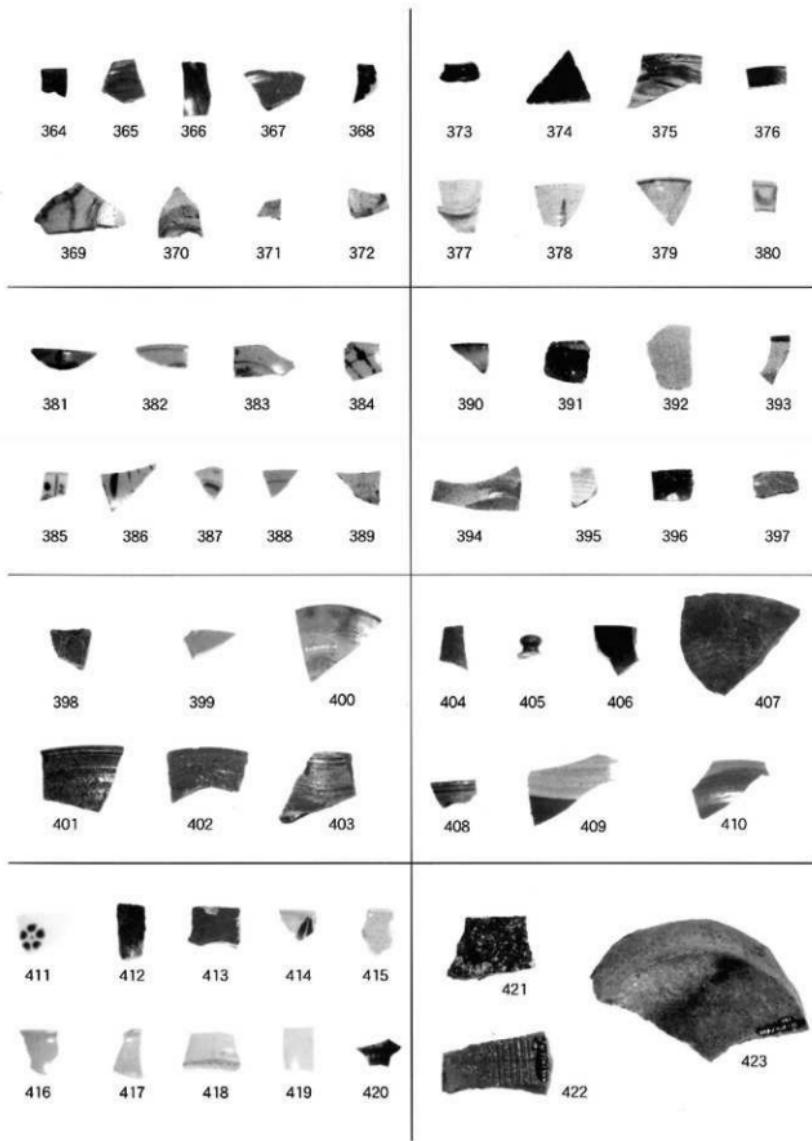
古代から近世にかけての遺構の検出は無かった。中・近世の遺物としては陶磁器があるが、鉄器等は出土していない。陶磁器は、輸入品（龍泉窯系青磁、漳州窯系青花、景德鎮系青花、褐釉陶器等）と国産品（肥前系陶磁器、上野・高取系陶器、瀬戸・美濃系陶磁器、関西系陶器、備前焼等）が出土しているが、耕作の影響からか小破片が多い。また、明確に時期を判断できない遺物として、砂岩製の砥石（357・358）と土錘（359）及び砂岩製の石錘（360～363）がある。

产地	種類	時代	出土遺物	備考	产地	種類	時代	出土遺物	備考
龍泉窯系青磁	碗	14c後半～15c前半	364		肥前系陶器	碗	16c末	396～392	鉄錆・露灰錆
	豆口碗	14c後半～15c前半	365			碗	17c後半～18c前半	393,394	鉄錆錆・透明錆
	邊付文碗	15c後半～16c	366			刷毛目瓶	17c後半～17c前半	395,396	
	邊花口	15c後半～16c前半	367			瓶	16c末～17c初頭	397	鉄錆津
景德鎮系青磁	瓶	15c後半～16c	368	外腹有臘燒草文	肥前系陶器	瓶	17c末	398	二郎前津
	瓶?	15c後半～16c	369			瓶	17c後半～18c前半	399	
	蓋		371			刷毛目瓶	17c代?	401,402	二郎手
瀬戸窯系青花	瓶	16c後半	372	裏以外の可能性あり		刷毛目瓶?	17c代?	403,414	花瓶・他町? 鉄錆錆
	蓋入	15c後半～16c前半	373	中田産?		瓶物	19c	404	
	蓋	16c代?	375	中田産?		土瓶蓋	19c	405	
大日茶碗	碗	不明	376	中世	陶胎塗付	漆屏風	18c後半～19c	406	
	高台無脚碗	17c中頃	377			漆利?	不明	407	
	束口瓶	1780～1840年代	378			瓶	不明	410	
	端反瓶	1810～1860年代	379			端反瓶	19c代	411	
	築村理彌輪	1810～1860年代	380,384		天日茶碗	天日茶碗	18c後半～19c中頃	412,413	
	築村九彌	18c～19c	381,382	肥前系以外の九彌の 窓の可能性あり		端反輪	18c後半～19c前半	414～417	
	築村柄	18c～19c	383	部分開窓		置物(他所?)	19c代?	418	
	築村直角	18c～19c	385			土瓶(?)	19c代?	420	
	築村袋物	18c～19c	386			四耳壺	15c中葉～16c	421	
肥前系磁器	小杯	19c代?	387	上端付		腰錆	14c中葉～15c中葉	422	
	築付皿	18c～19c	388,389			蓋	時期不明	423	

35. 出土陶磁器類一覧表



36. 岩土原遺跡その他の出土遺物実測図 (S=1/3・1/4)



37. 出土陶磁器類 (364~423)

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(中)	量長 cm (標高)	量幅 cm (口・底)	量厚 cm (底土)	重量 g (底土)
1	岩手北平1区	7	使用剝離片 滑石器	打面小明 犬歯部欠損 上部欠損		5.0	4.3	0.8	1046
2	岩手北平1区		鍔部 ホルンフェルス	打面なし 自然面有 鳥爪文調		6.5	7.0	3.2	179.94
3	岩手北平3区	6	石器 ホルンフェルス	裏形彫		1.8	1.6	0.3	0.60
4	岩手北平2区	6	石器 チャーク	裏形彫		2.8	2.2	0.5	1.89
5	岩手北平1区		スクリューバー チャート	刃跡後法? 使用痕有		2.5	1.5	0.9	3.12
6	岩手北平3区	6	スクリューバー チャート	刃欠損		1.7	1.5	0.6	1.38
7	岩手北平2区	6	使用剝離片 斧墨石	自然面を打面とする		3.7	3.1	0.6	3.95
8	岩手北平3区	6	使用剝離片 チャート	打面に刃も使用痕 刃跡不明		5.0	1.6	0.7	6.18
9	岩手北平2区	6	石器 チャート	尖端部欠損 両側刃面加工有		4.0	1.3	0.4	2.19
10	岩手北平2区	6	石器 チャート	尖端部欠損 つまみ部分折れ		3.2	2.7	1.1	8.28
11	岩手北平2区	6	鍔部 砕石	使用削刃有 自然面有		12.5	9.9	2.6	351.39
12	岩手北平3区	6	墨石 砕石	剝離に刃跡有(両面の一部深く凹む)		9.9	7.9	4.1	493.95
13	岩手北平2区	6	磨石 花崗岩	受熱 大崩落有		5.6	4.5	4.8	206.63
14	岩手北平2区	6	石器 砕石	両側刃に刃跡有 残存		5.4	5.6	1.5	63.07
15	岩手北平2区	2	鍔部 制削	使用削刃有 ナメス スズ 柄付	ナメス 壓縮色				
16	岩手北平1区	2	鍔部 ハシモロ	直面削り文 有刃部有 木手付有	ナメス 壓縮色				
17	岩手北平2区	6	石器 ハシモロ	直面削り文 ナメス 有刃部 木手付 有刃部 有刃部	ナメス 壓縮色				
18	岩手北平2区	6	鍔部 制削	直面削り文 ナメス 有刃部 木手付 有刃部 有刃部	ナメス 壓縮色				
19	岩手北平2区	7	突起 口絞部	直面削り文 ナメス 有刃部 木手付 有刃部	ナメス 壓縮色				
20	岩手北平2区	7	石器 制削	より直面 口絞部 有刃部	ナメス 有刃部				
21	岩手北平2区	6	石器 制削	より直面 有刃部 有刃部	ナメス 有刃部				
22	岩手北平2区	6	鍔部 制削	より直面 有刃部 有刃部	ナメス 有刃部				
23	岩手北平2区	6	鍔部 制削	ナメス 壓縮色	ナメス 壓縮色				
24	岩手北平1区	7	石器 ハシモロ	ナメス 制削文 有刃部	ナメス 壓縮色				
25	岩手北平2区	7	石器 制削	ナメス 有刃部	ナメス 壓縮色				
26	岩手北平1区	6	鍔部 口絞部	ナメス スズ 明鏡荷包	ナメス 明鏡荷包				
27	岩手北平2区	6	鍔部 制削	ナメス スズ 明鏡荷包	ナメス 明鏡荷包				
28	岩手北平2区	6	石器 制削	ナメス スズ 明鏡荷包	ナメス 明鏡荷包				
29	岩手北平2区	6	石器 口絞部	ナメス 口絞部 有刃部 木手付 有刃部	ナメス 有刃部				
30	岩手北平2区	6	石器 口絞部	ミガキ 黒褐色	ミガキ に付い緑色				
31	岩手北平1区	6	石器 口絞部	ナメス 有刃部 木手付 有刃部	ナメス 有刃部 木手付				
32	岩手北平1区	6	石器 口絞部	ナメス ツマミ彫	ナメス ツマミ彫	4.3	1.6	1.5	8.61
33	岩手北平2区	7	丸形 ハシモロ	打面有		4.9	1.0	0.5	1.98
34	岩手北平1区	6	扇形 砕石	自然面有		2.0	1.8	1.1	2.57
35	岩手北平1区	6	扇形 砕石	改鋸文	改鋸文	3.4	3.1	1.6	22.71
36	岩手北平1区		使用剝離片 滑石器	打面直		4.9	3.3	1.0	13.83
37	岩手北平1区	7	使用剝離片 滑石器	打面直		6.2	3.1	0.6	13.51
38	岩手北平1区	7	扇形 砕石	ナメス 壓縮色	ナメス 壓縮色	8.1	6.3	2.0	78.23
39	岩手北平1区	6	スクリューバー 改鋸文	打面有 壓縮色	ナメス 壓縮色	3.2	3.1	1.0	11.01
40	岩手北平1区	6	打面有する石器	打面有		6.3	5.1	3.0	103.82
41	岩手北平1区	6	打面有する石器	打面有		4.7	4.6	1.8	38.62
42	岩手北平2区	7	スクリューバー 滑石器	打面有		5.2	5.4	1.2	42.43
43	岩手北平1区	6	スクリューバー 滑石器	打面有 壓縮色	ナメス 壓縮色	4.9	4.4	1.3	22.74
44	岩手北平1区	7	スクリューバー 滑石器	打面有 壓縮色	ナメス 壓縮色	5.0	4.5	2.1	57.19
45	岩手北平4区	7	スクリューバー	打面有		4.6	4.5	1.1	29.32
46	岩手北平2区	6	スクリューバー	打面有		9.3	3.4	1.9	35.80
47	岩手北平1区	6	スクリューバー	打面有		6.2	4.5	1.7	56.70
48	岩手北平2区	6	スクリューバー	打面有		5.7	7.2	3.0	146.64
49	岩手北平1区	6	石核 滑石器	自然面有		6.1	5.3	4.0	153.33
50	岩手北平1区	6	石核 滑石器	自然面有		7.0	6.1	4.5	225.95
51	岩手北平1区	7	石器 ハシモロ	直面彫		10.0	7.0	4.1	326.20
52	岩手北平1区	7	石器 ハシモロ	直面彫		2.0	1.7	0.7	2.23
53	岩手北平1区	6	使用削刃片 砕石器	直面彫		3.2	4.1	0.7	10.14
54	岩手北平2区	9	石器 ハシモロ	ナメス 上スズ に付い青緑色	ナメス 壓縮文 横壓文 装飾文 装飾文				
55	岩手北平2区	9	石器 ハシモロ	ナメス 上スズ	ナメス 壓縮色				
56	岩手北平2区	9	石器 ハシモロ	ナメス に付い青緑色	ナメス に付い緑色				
57	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
58	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
59	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
60	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
61	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
62	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
63	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
64	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
65	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
66	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
67	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
68	岩手北平2区	8	スクリューバー	チャート		2.0	1.6	0.4	0.95
69	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
70	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
71	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
72	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
73	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
74	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
75	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
76	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	ナメス 有刃部	ナメス 有刃部				
77	岩手北平2区	8	使用剝離片 滑石器	ナメス 上スズ に付い青緑色	ナメス 上スズ に付い青緑色	5.2	2.2	0.7	8.82
78	岩手北平2区	8	石器 ハシモロ	山形削文	山形削文				

38. 出土遺物観察表①

番号	出土地点	層	種類(石材・部材)	部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(中)	長さ cm (高さ)	幅幅 cm (D・E部)	最厚 cm (土台)	重量 g (重成)
79	岩上原土坑2		漆鉢 脱帽		山形押印文 油墨えき 刷毛褐色	ナデ 明赤褐色			延1~4mm程度の砂粒含む	8
80	岩上原土坑3		スクレイパー チャート	一墨矢頭			1.8	1.8	0.4	123
81	岩上原土坑3		スクレイパー 漆鉢	打削面	山形面文		4.5	3.9	1.0	1955
82	岩上原土坑3		漆鉢 刷毛	舟円押印文 スス 防塵褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
83	岩上原土坑3		漆鉢 刷毛	舟円押印文 棕褐色	ナデ 棕褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
84	岩上原土坑3		漆鉢 刷毛	より糸文 にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
85	岩上原土坑4		便用鉢 刷毛	白山面文			7.3	2.8	1.0	2272
86	岩上原土坑4		便用鉢 刷毛	自然向右			7.6	4.6	1.0	4043
87	岩上原土坑4		便用鉢 ピラフ	自然向右			6.0	5.6	1.4	4241
88	岩上原土坑4		便用鉢 ピラフ	自然向左			8.3	6.5	3.0	16087
89	岩上原土坑4		便用鉢 破片	刷毛			4.9	4.0	2.8	7036
90	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	山形押印文 ナデ 亂書き にぶい赤褐色	ナデ 刷毛褐色				延1~2mm程度の砂粒含む	8
91	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	自然向右					延1~3mm程度の砂粒含む	8
92	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	山形押印文 スス にぶい褐色	ナデ にぶい褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
93	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	山形押印文 ズヌ 明赤褐色	ナデ 明赤褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
94	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	舟円押印文 ナデ 明赤褐色	ナデ 棕褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
95	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	舟円押印文 ナデ 明赤褐色	ナデ 棕褐色				延1~2mm程度の砂粒含む	8
96	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	山形押印文 スス 棕褐色	ナデ 棕褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
97	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	舟円押印文 にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~2mm程度の砂粒含む	8
98	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	より糸文 ナデ 白山面文 スス 棕褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
99	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	山形押印文 ナデ 亂書き にぶい赤褐色	ナデ 白山面文 スス 棕褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
100	岩上原土坑4		漆鉢 口縁部	舟円押印文 ナデ 亂書き にぶい赤褐色	ナデ 亂書き にぶい赤褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
101	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	ナデ 亂書き にぶい赤褐色	ナデ 亂書き にぶい赤褐色				延1~5mm程度の砂粒含む	8
102	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	ナデ 棕褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~7mm程度の砂粒含む	8
103	岩上原土坑4		漆鉢 刷毛	ナデ 棕褐色	ナデ 明赤褐色				延1~2mm程度の砂粒含む	8
104	岩上原土坑5		石塊	黒曜石			2.9	0.8	0.1	660
105	岩上原土坑5		石塊	黒曜石			1.3	1.2	0.4	643
106	岩上原土坑5		等々を有する石塊	チャート			1.7	1.5	0.4	0.73
107	岩上原土坑5		石塊	チャート	刷毛のみ		1.6	1.2	0.3	0.65
108	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	より糸文 ナデ にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
109	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟円押印文 刷毛	堆積状 ナデ 棕褐色				延1~5mm程度の砂粒含む	8
110	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟円押印文 にぶい赤褐色	堆積状 ナデ 棕褐色				延1~6mm程度の砂粒含む	8
111	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟円押印文 にスス にぶい赤褐色	雨衣状 ナデ スス 棕褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
112	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟円押印文 にスス にぶい赤褐色	雨衣状 ナデ にぶい赤褐色				延1~5mm程度の砂粒含む	8
113	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟円押印文 堆積状	ナデ 棕褐色				延1~6mm程度の砂粒含む	8
114	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	より糸文 斧面	刷毛のみ にぶい赤褐色				延1~3mm程度の砂粒含む	8
115	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	山形押印文 に にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~4mm程度の砂粒含む	8
116	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	山形押印文 亂書き に にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色				延1~5mm程度の砂粒含む	8
117	岩上原土坑5		漆鉢 口縁部	舟彫文	山形押印文 明赤褐色	ナデ 浅黄褐色			延1~7mm程度の砂粒含む	8
118	岩上原土坑6		スクリーパー	漆鉢			5.9	3.7		2107
119	岩上原土坑6		小延年石製	チャート	火打石		2.0	2.1	0.7	387
120	岩上原土坑6		スクリーパー チャート	火打石	自然表面		2.4	1.4	0.5	148
121	岩上原土坑6		使用鉢片	飛散岩	火打石 不規則火打石		4.8	2.3	0.5	560
122	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	文様文 スス 黒斑				延1~4mm程度の砂粒含む	8
123	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ にぶい赤褐色	ナデ にぶい赤褐色			延1~5mm程度の砂粒含む	8
124	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	山形押印文 スス にぶい赤褐色	山形押印文 ナデ 棕褐色			延1~6mm程度の砂粒含む	8
125	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	山形押印文 ナデ 亂書き 亂書き	ナデ 亂書き にオーリーブ葉色			延1~4mm程度の砂粒含む	8
126	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ にぶい赤褐色	ナデ 棕褐色			延1~5mm程度の砂粒含む	8
127	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ にぶい赤褐色	山形押印文 ナデ にぶい赤褐色			延1~6mm程度の砂粒含む	8
128	岩上原土坑6		漆鉢	口縁部	山形押印文 ナデ スス にぶい赤褐色	山形押印文 オデ スス 褐色			延1~7mm程度の砂粒含む	8
129	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	山形押印文 ナデ 亂書き 亂書き	ナデ 亂書き 明赤褐色			延1~5mm程度の砂粒含む	8
130	岩上原土坑6		漆鉢	口縁部	ナデ 乱書き スス 亂書き	ナデ 亂書き 亂書き			延1~6mm程度の砂粒含む	8
131	岩上原土坑6		漆鉢	口縁部	ナデ 亂書き スス 明赤褐色	ナデ 亂書き 明赤褐色			延1~7mm程度の砂粒含む	8
132	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	舟彫文 斧面	舟彫文 斧面			延1~5mm程度の砂粒含む	8
133	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	より糸文 ナデ 斧面	より糸文 ナデ 明赤褐色			延1~6mm程度の砂粒含む	8
134	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	より糸文 ナデ 斧面	より糸文 ナデ 棕褐色			延1~7mm程度の砂粒含む	8
135	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ 亂書き 亂書き	ナデ 亂書き 亂書き			延1~8mm程度の砂粒含む	8
136	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ 亂書き 亂書き	ナデ 亂書き 亂書き			延1~9mm程度の砂粒含む	8
137	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ 棕褐色	ナデ 棕褐色			延1~10mm程度の砂粒含む	8
138	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	ナデ スス にぶい赤褐色	ナデ スス 棕褐色			延1~11mm程度の砂粒含む	8
139	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	チャート		3.0	2.2	0.9	17
140	岩上原土坑6		加工を有する石器	砂器	使用歴なし		4.2	5.2	0.6	1801
141	岩上原土坑6		漆鉢	刷毛	山形押印文 明赤褐色	「ナデ 亂書き スス 棕褐色			延1~6mm程度の砂粒含む	8
142	岩上原土坑6	10	砾石	砂	山形押印文 明赤褐色	「ナデ 亂書き スス 棕褐色	6.3	7.2	2.7	13840
143	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	舟円押印文 明赤褐色	ナデ 明赤褐色			延1~5mm程度の砂粒含む	8
144	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	舟円押印文 明赤褐色	ナデ 明赤褐色			延1~6mm程度の砂粒含む	8
145	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	舟円押印文 明赤褐色	ナデ 明赤褐色			延1~7mm程度の砂粒含む	8
146	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	舟円押印文 明赤褐色	ナデ 明赤褐色			延1~8mm程度の砂粒含む	8
147	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	ナデ 棕褐色	舟円押印文 にぶい赤褐色			延1~9mm程度の砂粒含む	8
148	岩上原土坑7		漆鉢	刷毛	ナデ 棕褐色	舟円押印文 にぶい赤褐色			延1~10mm程度の砂粒含む	8
149	岩上原土坑7		便用鉢 刷毛	チャート			1.7	1.2	0.4	648
150	岩上原土坑7		スクリーパー	チャート			2.5	2.0	0.7	379
151	岩上原土坑7		便用鉢 刷毛	泥質岩	打削を有す		2.5	1.9	0.9	506
152	岩上原土坑7		便用鉢 刷毛	自然表面	打削を有す		3.9	4.7	1.1	2093
153	岩上原土坑7		便用鉢 刷毛	自然表面	打削を有す		5.2	6.5	1.8	
154	岩上原土坑7		便用鉢 刷毛	自然表面	打削を有す		5.6	3.3	1.0	1356
155	岩上原土坑7		スクリーパー	アルミニウム	自然表面		5.0	3.8	1.0	2663
156	岩上原土坑7		すり 石	砂岩	自然表面		7.8	9.9	4.2	56264
				粘土	自然表面		16.2	12.9	3.7	87789

39. 出土遺物観察表②

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(中)	長 cm (高さ)	幅 cm (口・幅)	最厚 cm (底土)	重量 g (算定)
157	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	無模文 ナメラテヌアス ピ景文	ナメ 雪駆きえ スヌ 反復色	径1~6mm程度の砂粒含む		良	
158	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	山形押型文 スヌ 異色	ナメ スヌ 明赤褐色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
159	岩手原傳土	5	深鉢 刻部	山形押型文 ナメ 雪駆きえ 青色	ナメ 指揮え 露赤褐色	径1~4mm程度の砂粒含む		良	
160	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	横円押型文 景文	横円押型文 にぶい穂色	径1~4mm程度の砂粒含む		良	
161	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	横円押型文 にぶい穂色	より糸文 露赤褐色	径1~4mm程度の砂粒含む		良	
162	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	横円押型文 異色	ナメ にぶい赤褐色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
163	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	より糸文 ナメ 雪駆きえ 異色	ナメ 雪駆きえ スヌ 反復色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
164	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	より糸文 ナメ 雪駆きえ にぶい穂色	ナメ 雪駆きえ にぶい穂色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
165	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	より糸文 ナメ 露赤褐色	ナメ にぶい赤褐色	径1~4mm程度の砂粒含む		良	
166	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	ナメ 雪駆きえ 露赤褐色	ナメ 雪駆きえ にぶい穂色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
167	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	ナメ 雪駆きえ 山形押型文 異色	ナメ 雪駆きえ にぶい穂色	径1~4mm程度の砂粒含む		良	
168	岩手原傳土	5	深鉢 口縁部	ナメ スヌ にぶい穂色	ナメ 雪駆きえ	径1~7mm程度の砂粒含む		良	
169	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	ナメ 雪駆きえ 異色	ナメ 雪駆きえ 異色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
170	岩手原傳土	5	深鉢 脚部	山形押型文 スヌ にぶい穂色	ナメ 雪駆きえ にぶい穂色	径1~7mm程度の砂粒含む		良	
171	岩手原傳土	6	深鉢 脚部	山形押型文 スヌ にぶい穂色	ナメ スヌ 明赤褐色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
172	岩手原傳土	6	深鉢 脚部	山形押型文 雪駆きえ 露赤褐色	ナメ 雪駆きえ 異色	径1~2mm程度の砂粒含む		良	
173	岩手原傳土	6	深鉢 脚部	山形押型文 雪駆きえ スヌ 異色	ナメ にぶい穂色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
174	岩手原傳土	6	深鉢 脚部	より糸文 スヌ 異色	ナメ 異色	径1~5mm程度の砂粒含む		良	
175	岩手原傳土	7	碗形 花瓶底			5.1	5.1	4.1	136.96
176	岩手原傳土	7	深鉢 脚部	不明野文 白押文 スヌ にぶい穂色	ナメ にぶい穂色	径1~6mm程度の砂粒含む		良	
177	岩手原傳土	7	深鉢 脚部	ナメ 雪駆きえ スヌ C式穂色	ナメ にぶい穂色	径1~6mm程度の砂粒含む		良	
178	岩手原傳土	7	深鉢 脚部	ナメ にぶい穂色	ナメ にぶい穂色	径1~2mm程度の砂粒含む		良	
179	岩手原傳土	7	石舟 木チャート			1.6	1.2	0.4	0.66
180	岩手原傳土	8	石舟 瓦チャート			1.5	1.3	0.2	0.35
181	岩手原傳土	8	石舟 木チャート			2.1	2.1	0.6	2.13
182	岩手原傳土	8	石舟 木チャート			1.2	1.7	0.4	0.39
183	岩手原傳土	8	石舟 黒墨			1.8	1.2	0.4	0.94
184	岩手原傳土	8	石舟 木チャート	多施用火候 横墨端 鋼刀外刃	ナメ スヌ 穂色	2.4	2.8	0.5	2.71
185	岩手原傳土	8	石舟 次郎ルシェルス	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	2.1	3.0	0.4	1.86
186	岩手原傳土	8	石舟 チャート	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	1.5	1.2	0.2	0.38
187	岩手原傳土	8	石舟 破墨端	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	1.7	1.5	0.2	0.56
188	岩手原傳土	8	石舟 木チャート	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	2.3	1.9	0.4	1.21
189	岩手原傳土	8	石舟 木チャート	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	3.0	1.8	0.5	2.62
190	岩手原傳土	8	石舟 木チャート	多施用火候	ナメ 雪駆きえ	3.9	1.7	0.3	2.17
191	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート			3.1	2.5	0.6	4.87
192	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート			5.8	2.4	1.6	16.14
193	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート			5.6	2.3	1.2	10.16
194	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート			3.7	2.3	0.9	6.87
195	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート	合款面を打削する	ナメ 雪駆きえ	2.3	4.1	1.6	14.62
196	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート	合款面を打削する	ナメ 雪駆きえ	4.8	3.8	0.7	19.77
197	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート	合款面を打削する	ナメ 雪駆きえ	5.9	5.7	1.5	70.36
198	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート	合款面を打削する	ナメ 雪駆きえ	5.7	4.8	3.5	85.6
199	岩手原傳土	8	六角形石舟 瓦チャート	合款面を打削する	ナメ 雪駆きえ	2.0	1.4	0.4	1.18
200	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート			5.8	7.2	1.6	84.66
201	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	7.8	3.3	3.1	120.62
202	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	11.1	10.3	3.5	62.54
203	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ 茅部欠損	9.9	6.4	2.1	45.77
204	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	12.1	6.1	1.7	49.48
205	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ 茅部欠損	8.5	5.0	1.3	37.54
206	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	6.4	4.8	2.3	32.27
207	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	4.6	3.6	1.3	22.10
208	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	9.3	3.9	4.5	31.44
209	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	打削有	ナメ 雪駆きえ	6.3	2.3	2.7	12.82
210	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	3.6	2.9	2.7	10.43
211	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	5.5	5.2	3.2	13.45
212	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	4.1	7.1	3.8	24.14
213	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	5.3	3.1	3.8	7.65
214	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	7.2	4.8	4.3	19.53
215	岩手原傳土	8	スクリーパー チャート	剥離有	ナメ 雪駆きえ	6.3	3.8	3.9	12.64
216	岩手原傳土	7	磨石 破墨			11.0	8.1	3.8	48.16
217	岩手原傳土	7	磨石 破墨			11.8	9.2	5.9	74.64
218	岩手原傳土	7	磨石 破墨			11.7	6.9	2.6	18.09
219	岩手原傳土	7	磨石 破墨			7.6	7.3	2.1	13.66
220	岩手原傳土	7	磨石 破墨			10.3	9.0	2.5	21.35
221	岩手原傳土	7	磨石 破墨			18.1	11.3	3.5	53.31
222	岩手原傳土	7	磨石 破墨			17.6	10.8	3.9	52.24
223	岩手原傳土	7	磨石 破墨			17.5	12.1	6.2	50.00
224	岩手原傳土	7	磨石 破墨			25.7	24.1	9.7	74.00
225	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 スヌ 異色	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
226	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 スヌ にぶい穂色	空糸 ナメ 異色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
227	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 スヌ にぶい穂色	空糸 文 異色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
228	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 文 異色	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
229	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 文 異色	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
230	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	無模文 文 異色	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
231	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	山形押型文 指揮え	ナメ 異色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
232	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	山形押型文 指揮え	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
233	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	山形押型文 指揮え	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	
234	岩手原傳土	7	深鉢 口縁部	山形押型文 指揮え	ナメ にぶい穂色	径1~3mm程度の砂粒含む		良	

40. 出土遺物観察表③

41. 出土遺物觀察表④

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(中)	長さ ca (厘米)	幅幅 ca (厘米)	壁厚 ca (厘米) (底面)	重量 g (底面)
313	岩上層 I 区		漆鉢 残部	ナゲ 指揮さえ スス 棕色	ナゲ にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
314	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ 指揮さえ 青色(?) にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
315	岩上層 I 区	7	漆鉢 残部	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
316	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ(指揮さえ、高脚鉢) 切欠き部	ナゲ 切欠き部 にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
317	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ にぶい褐色	ナゲ スス にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
318	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ 指揮さえ 2ス. にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ 陶脚灰褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
319	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ 指揮さえ 棕色	ナゲ 指揮さえ 棕色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
320	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	ナゲ 文字彫刻無	ナゲ 文字彫刻無	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
321	岩上層 I 区		漆鉢 残部	漆小鉢 塗装文 2ス. 明褐色	ナゲ スス 明褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
322	岩上層 I 区	14	漆鉢 残部	次鉢 スス ずり青 彩文鉢	ナゲ にぶい褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
323	岩上層 I 区		漆鉢 川崎型	切欠き部 2ス. 32. 指揮さえ	ナゲ 2.5 手前 頭	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
324	岩上層 I 区		漆鉢 残部	ミガキ 褐い表面 明褐色	ミガキ ナゲ 明赤褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
325	岩上層 I 区	5	漆鉢 残部	漆鉢 ナゲ 明褐色	ナゲ 漆赤褐色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
326	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	漆鉢 ナゲ 指揮さえ	ナゲ 指揮さえ	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
327	岩上層 I 区	14	漆鉢 残部	漆鉢 ナゲ 指揮さえ	ナゲ 指揮さえ	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
328	岩上層 I 区	6	漆鉢 残部	漆鉢 ナゲ 指揮さえ	ナゲ 指揮さえ	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
329	岩上層 I 区	14	漆鉢 残部	漆鉢 ナゲ 指揮さえ	ナゲ 指揮さえ	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
330	岩上層 I 区		漆鉢 口輪部	漆鉢 ナゲ 入口に切欠き部	ナゲ 間接 両側 面開き 2ス. 棕色	81.0~4mm	2.0~4mm	2.0~4mm	2.0
331	岩上層 I 区		漆鉢	次鉢 にぶい褐色	ナゲ スス にぶい褐色	81.0~6mm	2.0~6mm	2.0~6mm	2.0
332	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 漆赤褐色 ハケの跡 灰色	ナゲ 漆赤褐色	81.0~3mm	2.0~3mm	2.0~3mm	2.0
333	岩上層 I 区	5	漆鉢	次鉢 にぶい褐色	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	81.0~3mm	2.0~3mm	2.0~3mm	2.0
334	岩上層 I 区	6	漆鉢	漆鉢 ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	81.0~4mm	2.0~4mm	2.0~4mm	2.0
335	岩上層 I 区	14	漆鉢	漆鉢 ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	81.0~3mm	2.0~3mm	2.0~3mm	2.0
336	岩上層 I 区		漆鉢	漆鉢 ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	81.0~3mm	2.0~3mm	2.0~3mm	2.0
337	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	ナゲ 2.5 手前 2ス. にぶい褐色	81.0~3mm	2.0~3mm	2.0~3mm	2.0
338	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ(赤色顔料) 棕色	ナゲ(赤色顔料) 棕色	81.0~2mm	2.0~2mm	2.0~2mm	2.0
339	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 2.5 手前 2ス. 棕色	ナゲ 棕色	81.0~6mm	2.0~6mm	2.0~6mm	2.0
340	岩上層 I 区	5	漆鉢	ハケの跡 ナゲ 2.5 手前 2ス. 棕色	ナゲ 棕色	81.0~6mm	2.0~6mm	2.0~6mm	2.0
341	岩上層 I 区	6	漆鉢	ナゲ 2.5 手前 2ス. 棕色	ナゲ 2.5 手前 2ス. 棕色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
342	岩上層 I 区	14	漆鉢	ナゲ にぶい褐色	ナゲ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
343	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ にぶい褐色	ナゲ にぶい褐色	81.0~5mm	2.0~5mm	2.0~5mm	2.0
344	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ にぶい褐色	ナゲ にぶい褐色	81.0~4mm	2.0~4mm	2.0~4mm	2.0
345	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ にぶい褐色	ナゲ にぶい褐色	81.0~4mm	2.0~4mm	2.0~4mm	2.0
346	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
347	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
348	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
349	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~4mm	2.0~4mm	2.0~4mm	2.0
350	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~6mm	2.0~6mm	2.0~6mm	2.0
351	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~6mm	2.0~6mm	2.0~6mm	2.0
352	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
353	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
354	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
355	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
356	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
357	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
358	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
359	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
360	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
361	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
362	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
363	岩上層 I 区		漆鉢	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	ナゲ 指揮さえ にぶい褐色	81.0~7mm	2.0~7mm	2.0~7mm	2.0
						11.5	7.7	5.6	705.42
						19.4	7.8	4.4	983.25
						18.0	9.5	4.0	993.42
						12.6	9.7	1.1	224.64
						11.9	10.2	5.1	996.79
						3.7	1.4	1.1	7.2
						5.5	2.1	1.5	28.78
						6.3	4.0	1.4	43.62
						4.2	2.2	1.3	18.74
						5.0	4.3	1.2	35.25

42. 出土遺物観察表⑤



43. 岩土北平遺跡・岩土原遺跡
航空写真（南西）より



44. 岩土北平遺跡航空写真



45. 岩土原遺跡 1区航空写真



46. 岩土原遺跡 2～4区航空写真



47. 岩土原遺跡 5区航空写真



48. 1号集石遺構（北より）



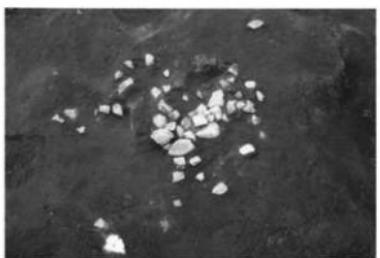
49. 2号集石遺構（南より）



50. 3・4号集石遺構（南より）



51. 5号集石遺構（北より）



52. 6号集石遺構（北より）



53. 7号集石遺構（北より）



54. 8・9・10号集石遺構（北より）



55. 9号集石遺構断面（北より）



56. 11号集石遺構（南より）



57. 12号集石遺構（東より）



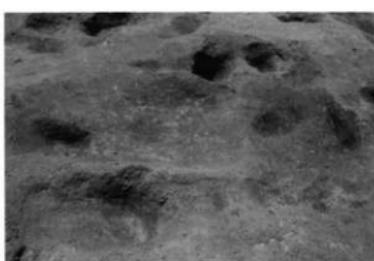
58. 13号集石遺構（東より）



59. 14号集石遺構（北より）



60. 2号土坑（東より）



61. 3号土坑（北より）



62. 4号土坑（南より）



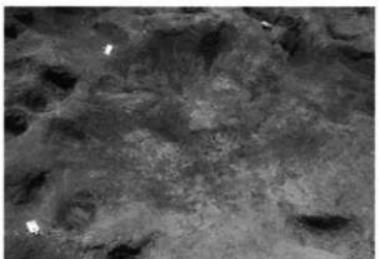
63. 5号土坑（南より）



64. 6号土坑（南より）



65. 7号土坑（北より）



66. 8号土坑（東より）



67. 9号土坑（東より）



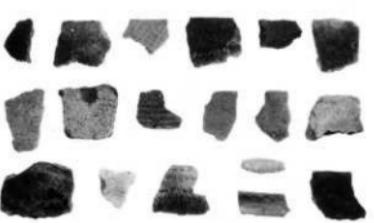
68. 10号土坑（東より）



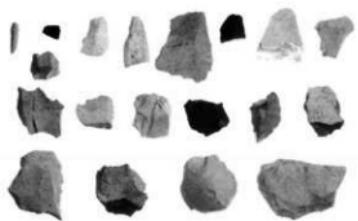
69. 1号竪穴住居跡（西より）



70. 出土遺物（1～14）



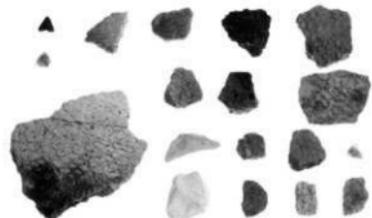
71. 出土遺物（15～32）



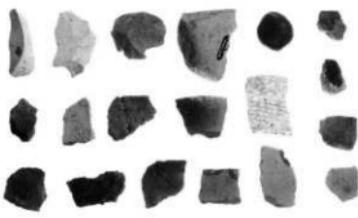
72. 出土遺物 (33~51)



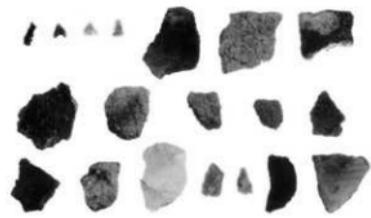
73. 出土遺物 (52~66)



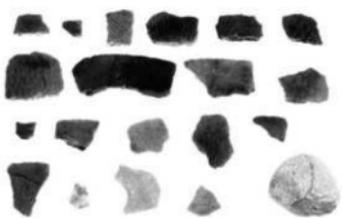
74. 出土遺物 (67~84)



75. 出土遺物 (85~103)



76. 出土遺物 (104~122)



77. 出土遺物 (123~142)



78. 出土遺物 (143~159)



79. 出土遺物 (160~178)



80. 出土遺物 (179~199)



81. 出土遺物 (200~206)



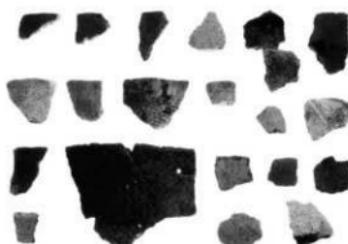
82. 出土遺物 (207~215)



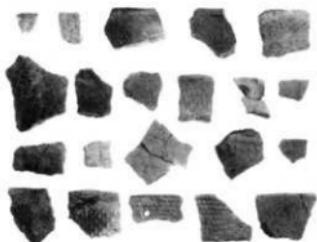
83. 出土遺物 (216~221)



84. 出土遺物 (222~224)



85. 出土遺物 (225~244)



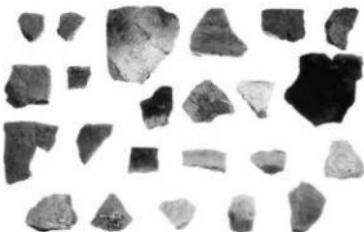
86. 出土遺物 (245~265)



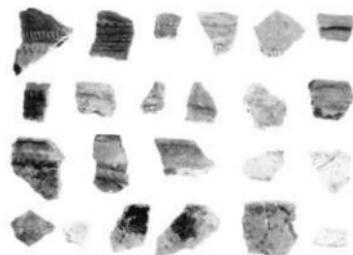
87. 出土遺物 (266~280)



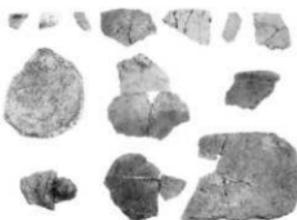
88. 出土遺物 (281~296)



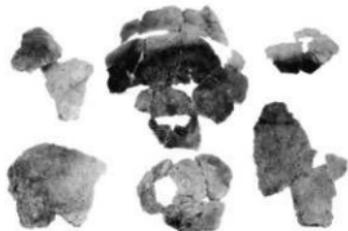
89. 出土遺物 (297~319)



90. 出土遺物 (320~342)



91. 出土遺物 (343~351)



92. 出土遺物 (352)



93. 出土遺物 (353)



94. 出土遺物 (354~356)



95. 出土遺物 (357~363)

III. おわりに

今回の市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財調査では、岩土北平遺跡で縄文時代早期の集石遺構1基と焼土集中部及び柱穴を若干、岩上原遺跡で縄文時代早期の集石遺構15基・連続土坑10基、焼礫集中部及び焼土集中部、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡1軒を検出した。調査区のほとんどは耕作により一部を除きローム層まで削平されている。

遺物では、旧石器時代の細石核や細石刃・スクレイバー、縄文時代早期及び中期・後期・晚期の石器・土器が出上した。弥生時代後期～古墳時代前期では、壺・甕・高杯等が出上している。

また、中・近世では陶磁器が、時期は不明であるが土錐・石錐等も出土している。

旧石器時代では、遺構の検出ではなく、包含層からの出土遺物も少ない。竪穴住居跡内からも旧石器時代所産の遺物が出土している。昭和44年に南九州短期大学による発掘調査では細石器と隆帯文に爪形の施文を有する土器が共伴しているため、縄文時代早期の下位及びローム層上位については慎重に掘りさげを行った。しかし、細石刃及び細石刃核が若干出土したもの、隆帯文土器の検出は無かった。一部AT層下位まで掘り下げたが、VII層以下での遺構・遺物の検出は無かった。流紋岩製の細石核には加工が施され、スクレイバーの機能を併用した石器もあり注目される。今後、事例の増加に期待したい。藏田遺跡や矢野原遺跡などの近接地域ではAT層下位の層から遺物の出土例が増加している。堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想される。今後の開発行為には十分注意する必要がある。

縄文時代では、耕作による削平の影響で遺物包含層の残存状態がよくなかった。その中で、縄文時代早期の集石遺構を岩土北平で1基、岩土原遺跡で13基検出した。特に岩土原4区で検出した9号集石遺構は深く掘り込まれ、すり鉢状のしっかりした作りとなっている。集石遺構が検出されなかった調査区もあるが、埋土中に焼けた礫を検出していることなどから、周辺にはまだ多くの存在が予想される。また、ローム層を掘り下げる中で、焼土集中部と黒褐色土の掘り込みを検出した。焼土集中部は不定形で浅いものが多く、底部にしっかりした焼上の堆積が見られる連続土坑を3区で検出している。今回の検出数は10基であるが、そのほとんどは耕作により改変を受けている。縄文時代早期の遺物としては、押形文土器を中心として貝殻円筒文土器、撲り糸文土器、鍬形織、尖頭状石器、スクレイバー、敲石、磨石等多数の遺物が出上した。早期以外の縄文時代の遺構の検出はないが、縄文時代中期の船元式土器や後期の西平式土器、晚期の突堤文土器が若干出土している。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると50例を超える。その中には、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例もあり、山間部における集落のあり方を考える上で興味深い。今回は古墳時代後期の竪穴住居跡1基のみの一部の検出にとどまったが、岩土北平遺跡では、近接する畑で石棺が確認されている。今後、周辺の開発事業と調整しながら継続して調査を行える体制を構築したい。

中・近世では陶磁器等が出土したが、その多くは耕作土中からの出土である。中国産及び国内産の各種陶磁器が出土しており、幅広い交流を伺うことができる。柱穴については、遺物を作わないため時期等詳細は不明である。全般的に削平が進み遺構は検出できなかつたが、付近に五輪塔なども見られることから、今後の開発には十分注意する必要がある。

報告書抄録

フリガナ	イワツチキタビライセキダイ2ジ・ダイ4ジ、イワツチバルイセキダイ2ジ・ダイ3ジ					
書名	岩土北平遺跡第2次・第4次、岩土原遺跡第2次・3次					
副書名	平成22・23年度市道岩土原線整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書					
卷次						
シリーズ名	延岡市文化財報告書					
シリーズ番号	第48集					
編集者名	小野信彦					
編集機関	延岡市教育委員会					
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1					
発行年月日	平成24年3月30日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 62	東経 32° 33' 19" 131° 32' 14"	調査期間 2011.3. 1~ 2011.7.25	調査面積 (m ²) 300
イワツチキタビラ 岩土北平遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033				市道岩土原 線整備事業 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
岩土北平遺跡	包藏地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	集石造構基 上坑、焼上集中部	上器・石器 陶磁器等		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 63	東経 32° 33' 15" 131° 32' 18"	調査期間 2011.3. 1~ 2011.7.25	調査面積 (m ²) 750
イワツチバル 岩土原遺跡	延岡市 北方町 笠下寅	2033				市道岩土原 線整備事業 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
岩土原遺跡	包藏地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	集石造構基、土坑墓 堅穴住居跡1軒	土器・石器 陶磁器等	連続土坑の 検出	

岩土北平遺跡第2次・第4次、岩土原遺跡第2次・第3次
延岡市文化財報告書

第48集

平成24年3月30日

発行 延岡市教育委員会
〒882-0811
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷 株式会社 ながと
〒882-0856
宮崎県延岡市出北4丁目2479番地

